

WebSAM

JobCenter

＜インストールガイド＞^{R12.8}

- Windows 2000, Windows XP, Windows Server 2003, Windows Server 2008 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- UNIX は、The Open Group が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
- Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。
- SAP, ERP, BI は、SAP AG の商標もしくは登録商標です。
- HP-UX は、米国 Hewlett-Packard 社の商標です。
- AIX は、米国 IBM Corporation の商標です。
- NQS は、NASA Ames Research Center のために Sterling Software 社が開発した Network Queuing System です。
- その他、本書に記載されているソフトウェア製品およびハードウェア製品の名称は、関係各社の登録商標または商標です。

なお、本書内では、®、TM、©の記号は省略しています。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェア)は、外国為替令に定める提供を規制される技術に該当いたしますので、日本国外へ持ち出す際には日本国政府の役務取引許可申請等必要な手続きをお取り下さい。

許可手続き等にあたり特別な資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業拠点にご相談下さい。

はじめに

本書は、JobCenter のインストールやバージョンアップ方法などについて説明しています。なお、本書内に記載されている画面例と実際の画面とは異なることがありますので注意してください。

本書では、JobCenter R12.8 を対象に説明しています。

本書の内容は将来、予告なしに変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

• 読み方

JobCenter を新規にインストール、またはバージョンアップされる場合

→ 本書をお読みください。

JobCenter を初めて利用される場合

→ クイックスタート編を目次に従いお読みください。

JobCenter の基本的な操作方法を理解したい場合

→ 基本操作ガイドを目次に従いお読みください。

環境の構築や各種機能の設定を理解したい場合

→ 環境構築ガイドを参照してください。

その他機能についてお知りになりたい場合

→ 関連マニュアルの内容をお読みいただき、目的のマニュアルを参照してください。

• 凡例

本書内での凡例を紹介します。



: 気をつけて読んでいただきたい内容です。

注 : 本文中につけた注の説明

備考 : 本文中の補足説明

 : UNIX 版のインストール画面の説明では、__部分(下線部分)はキーボードからの入力を示します。

● 関連マニュアル

JobCenter に関するマニュアルです。JobCenter メディア内に格納されています。

最新のマニュアルは、**JobCenter 製品サイトのダウンロードのページ**を参照してください。

URL : <http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/JobCenter/download.html>

資料名	概 要
JobCenter インストールガイド	本書
JobCenter クイックスタート編	初めて JobCenter をお使いになる方を対象に、JobCenter の基本的な機能と一通りの操作を説明しています。
JobCenter 基本操作ガイド	JobCenter の基本機能、操作方法について説明しています。
JobCenter 環境構築ガイド	JobCenter を利用するために必要な環境の構築、環境の移行や他製品との連携などの各種設定方法について説明しています。
JobCenter NQS 機能利用の手引き	JobCenter の基盤である NQS の機能を JobCenter から利用する方法について説明しています。
JobCenter クラスタ機能利用の手引き	クラスタシステムで JobCenter を操作するための連携方法について説明しています。
JobCenter SAP 機能利用の手引き	JobCenter を SAP と連携させるための方法について説明しています。
JobCenter インポート・エクスポート機能利用の手引き	ユーザ環境のバックアップや環境の移行の際に必要な、JobCenter 上のジョブネットワーク定義、スケジュール定義およびカレンダー定義のインポート・エクスポート機能について説明しています。
JobCenter 操作・実行ログ機能利用の手引き	JobCenter CL/Win からの操作ログ、ジョブネットワーク実行ログ取得機能および設定方法について説明しています。
JobCenter テンプレートガイド	JobCenter に標準添付されている各種テンプレートの利用方法について説明しています。
JobCenter コマンドリファレンス	GUI と同様にジョブネットワークの投入、実行状況の参照などをコマンドラインから行うために、JobCenter で用意されているコマンドについて説明しています。
JobCenter UCXSingle ジョブ利用ガイド	JobCenter を UCXSingle と連携させるための方法について説明しています。

● 改版履歴

版 数	変更日付	項 目	形 式	変更内容
1	2009/04/28	新規作成	—	第 1 版
2	2009/06/26	修正	—	「2.4 JobCenter MG/SV をインストールする」の注意事項を追記 「2.5 JobCenter CL/Win をインストールする」の注意事項を追記
3	2009/07/28	追加	—	「2.5 JobCenter CL/Win をインストールする」の警告メッセージ説明追記
4	2009/12/28	修正	—	「2.1.1 注意事項の事前確認」の説明修正
5	2011/07/15	修正	—	誤記を複数修正
6	2011/10/6	追記	—	「2.1.1 注意事項の事前確認」にユーザプロファイルをデフォルトロードしなくなった旨の注意事項を追記、IPv6 非対応を追記

このマニュアルの内容は改良のために予告なしに仕様・デザインを変更することがありますのでご了承下さい。

目 次

1. <i>JobCenterの動作環境</i>	7
2. <i>インストール</i>	8
2.1 インストールの準備をする	9
2.1.1 注意事項の事前確認	9
2.1.2 ネットワークを設定する	17
2.1.3 マシンIDを割り当てる	19
2.2 LicenseManagerをインストールする	20
2.2.1 HP-UX版	21
2.2.2 Solaris版	24
2.2.3 Linux版	26
2.2.4 AIX版	27
2.2.5 Windows版	28
2.3 コードワードを登録する	32
2.3.1 コードワードの登録作業	32
2.3.2 LicenseManagerインストール後に出力されるメッセージ	35
2.4 JobCenter MG/SVをインストールする	36
2.4.1 HP-UX版	36
2.4.2 Solaris版	37
2.4.3 Linux版	38
2.4.4 AIX版	40
2.4.5 Windows版 (通常インストール)	41
2.4.6 Windows版 (サイレントインストール)	53
2.5 JobCenter CL/Winをインストールする	55
2.5.1 通常インストール	55
2.5.2 サイレントインストール	62
3. <i>実行環境のセットアップ(UNIX版)</i>	63
4. <i>アンインストール</i>	71
4.1 LicenseManagerをアンインストールする	72
4.1.1 UNIX版	72

4.1.2 Windows版	73
4.2 JobCenter MG, JobCenter SVをアンインストールする	74
4.2.1 UNIX版	74
4.2.2 Windows版	76
4.3 JobCenter CL/Winをアンインストールする	79
4.3.1 パッケージを削除する	79
4.3.2 レジストリ関連のデータを削除する	79
5. バージョンアップ.....	80
5.1 UNIX版	81
5.1.1 バージョンアップ	82
5.1.2 NQS関連のデータ引き継ぎ	82
5.2 Windows版	83
5.2.1 バージョンアップ	83
5.2.2 NQS関連のデータ引き継ぎ	86
6. バージョンの確認方法.....	88
6.1 UNIX版	89
6.1.1 JobCenter MG/SV.....	89
6.2 Windows版	90
6.2.1 JobCenter SV	90
6.2.2 CL/Win	91
索 引	92

1. JobCenterの動作環境

JobCenter の動作環境および対応 OS につきましては、リリースメモの「動作環境」を参照してください。

2. インストール

LicenseManager, JobCenter MG/SV および JobCenter CL/Win のインストール方法を説明します。次の手順に従って作業を行ってください。

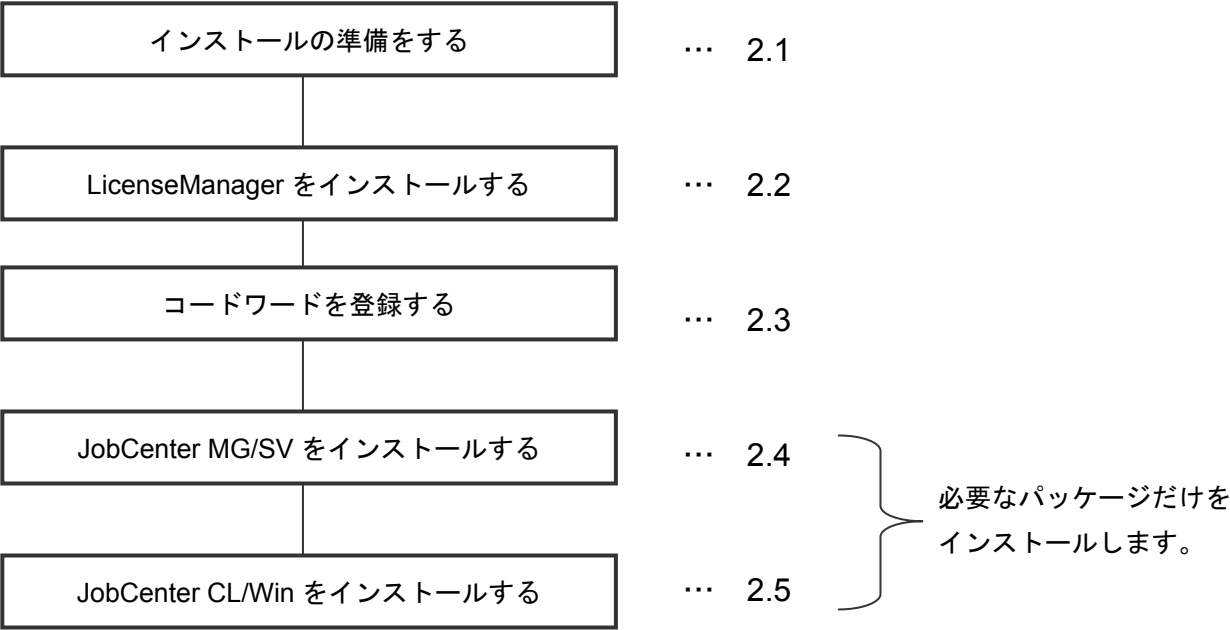


図 2-1 インストールの流れ

- 2.1 インストールの準備をする
- 2.2 LicenseManagerをインストールする
- 2.3 コードワードを登録する
- 2.4 JobCenter MG/SVをインストールする
- 2.5 JobCenter CL/Winをインストールする

2.1 インストールの準備をする

インストールを開始する前に必要な設定を行います。

- 2.1.1 注意事項の事前確認
- 2.1.2 ネットワークを設定する
- 2.1.3 マシンIDを割り当てる

2.1.1 注意事項の事前確認

- JobCenter は IPv4 のみ対応しています。IPv6 には非対応ですのでご注意ください。
- UNIX の場合の注意事項
 - JobCenter において” CommonJNW” というユーザ名は使用できません。また、ホスト名と同じユーザ名は使用できません。
 - LDAP 連携は直接サポートしていません。ただし LDAP サーバのパスワード暗号化方式が crypt で、かつ OS のライブラリ関数 getpwnam()または getpwent()で通常の/etc/passwd による管理と同様にユーザ名にアクセスできるのであれば、区別せず一般のユーザとして扱うことは可能です。
 - HP-UX の SMSE (Standard Mode Security Extensions) のようにユーザごとにアクセス制御が設定されている環境を直接サポートしていません。ただし JobCenter は getpwnam() または getpwent() で通常の/etc/passwd による管理と同様にユーザ名にアクセスできるのであれば、区別せず一般のユーザとして扱うことは可能です。
その場合、SMSE 環境において提供されるアカウントロック等のセキュリティ機能に対応していませんので、CL/Win で MG/SV にログイン/接続する際のパスワード認証の失敗回数のカウントや、ログイン失敗の記録は行われません。
 - インストールディレクトリのパーミッションについては、755のアクセス権が必要になります。従ってインストール時の root ユーザの umask の値が 755 のアクセス権をマスクしないようにする必要があります。
 - JobCenter の NQS 設定でグループに対するキューアクセス制限等を設定する場合は、クラスタサイトを構成する全てのノードで、グループ名と gid も統一する必要があります。
 - クラスタサイトを構成する全てのノードで、JobCenter を利用する全てのアカウント名とその uid を統一する必要があります。
統一されていない場合、クラスタパッケージがフェイルオーバーするとユーザマッピングが適合せず、ジョブ実行が継続できなくなる可能性があります。
 - JobCenter インストールディレクトリ配下の各初期化ファイルを、マニュアル記述範囲を超えて任意に変更した場合の動作は保証できません。

- Windows の場合の注意事項

- JobCenter で使用するディスク領域は(ローカル・クラスタサイト共)NTFS でフォーマットされている必要があります(FAT32 は不可)。
なお NTFS ファイルシステムは「8.3 short file name」の自動作成を OFF にしないと 1 フォルダへの大量ファイル (約 1 万～) 作成時にパフォーマンスが極端に落ちます。
短時間に大量のトラッカを生成したり巨大なジョブネットワークを作成して投入する環境では、OS の fsutil behavior コマンドによる無効化(fsutil behavior set disable8dot3 1)が必要になる場合があります。
- JobCenter はマルチプラットフォーム連携製品のため、先頭に数字をもつホスト名は使用できません。また 1 文字のホスト名はドライブ名として解釈されるのでインストールできません。
- JobCenter において"CommonJNW"というユーザ名は使用できません。また、コンピュータ名と同じユーザ名は使用できません。
- JobCenter で使用できるユーザ名の最大長は 15 バイトです。また、ユーザ名に漢字は使用できません。
- LDAP 連携は直接サポートしていません。ただし LDAP サーバのパスワード暗号化方式が crypt で、かつ ActiveDirectory 側で LDAP 連携環境が整っていてドメインユーザとして認証できるのであれば、区別せず一般のドメインユーザとして扱うことは可能です。
- JobCenter 管理者として指定するアカウントは、事前にローカルマシンの Administrators グループに所属している必要があります。
- ローカルサイトとクラスタサイトを同時に動作させる場合、ローカルサイトの JobCenter 管理者がクラスタサイトの JobCenter 管理者も兼ねることになりますので、事前に十分検討した上でインストールしてください。
- ドメイン環境において JobCenter 管理者としてローカルユーザを選択する場合は、JobCenter で利用できる全てのユーザはローカルユーザのみとなります。
JobCenter 管理者をドメインユーザとした場合はローカルユーザ・ドメインユーザともに利用できます。
- ドメイン環境において JobCenter 管理者としてドメインユーザを選択した場合、JobCenter のセットアップ時にローカルサービスが起動する際、または CL/Win で新規ドメインユーザで MG/SV に接続する際に、最初の 1 回目はドメインサーバ(PDC または BDC)にネットワーク的にアクセスできる状態であることが必要です。
もし PDC または BDC にアクセスできなかった場合、アカウント認証できないためサービス起動や CL/Win 接続に失敗します。
- JobCenter を利用するアカウントはローカルの JobCenter グループに所属することになりますが、同じアカウント名綴りのローカルユーザとドメインユーザを同時に JobCenter グループに

所属させることはできません。(いずれか一方のみ利用可能)

もし同じアカウント名綴りのローカルユーザとドメインユーザが同時に JobCenter グループに所属した場合、JobCenter が正常に動作しなくなる可能性があります。

- ドメイン環境の場合、クラスタサイトを構成するノードの組み合わせに制限があります。PDC とメンバサーバ、BDC とメンバサーバの組み合わせはできません。
- ドメイン環境では DNS が必要となりますが、DNS サーバと通信できなくなった状態では JobCenter が名前解決できず正しく停止処理を行えなくなりますので、hosts ファイル(もしくは JobCenter 側に設置する resolv.def ファイル)も設定して、名前解決できることを保証しておく必要があります。
- インストールするマシンが参加するネットワークがスパニングツリーで運用されている場合、NIC のリンクアップのタイミングが遅くなるため、マシン起動時に JobCenter がライセンスされている IP アドレスを確認できず、自動サービス起動に失敗する場合があります。
その場合は「JobCenter 環境構築ガイド 5.4 JobCenter の起動時ライセンスチェックについて」に従い、起動時のリトライ設定を行う必要があります。
- JobCenter の使用するディレクトリがウィルススキャンのオンアクセススキャンの対象になっている場合、ジョブの実行が正常に行えない場合があります。
そのため、JobCenter の使用するディレクトリ(インストールディレクトリと<Documents and Settings>ディレクトリ^{注1})をオンアクセススキャンの対象外にしてください。

注 1. Documents and Settings ディレクトリ全体ではなく、JobCenter で利用するユーザの以下のパスをオンアクセススキャンの対象外と設定範囲を絞ることも可能です。

Documents and Settings¥<USER>¥NTUSER.DAT

Documents and Settings¥<USER>¥ntuser.dat.LOG

上記は Windows Server 2003 以前の場合の例です。Windows OS ごとに実装が異なるため、上記に相当するパス/ファイルを環境ごとに確認した上でスキャン対象からはずすようにしてください。

- R12.8～R12.9 では、デフォルトではジョブ実行時にユーザプロファイルを読み込みません。ジョブから実行するユーザーコマンドがユーザプロファイルの読み込みを必要とする場合は、インストール完了後に、必要に応じてユーザプロファイルの読み込みに関する設定を行ってください。詳細は「環境構築ガイド 5.5.1 ジョブ実行時にユーザプロファイルを読み込む」を参照してください。



ユーザプロファイルへのウィルススキャンと JobCenter のジョブ実行時におけるユーザプロファイル読み込みが競合すると、NQS のキューが停止してジョブ実行が止まる可能性があります。ジョブから実行するユーザーコマンドがユーザプロファイルの読み込みを必要とする場合は、ユーザプロファイルへのウィルススキャン対象外にする等、システム側の対処も必要になる場合があります。

- JobCenter をインストール／運用するためには、Server サービスおよび Windows Management Instrumentation サービスが起動している必要があります。
[スタート]－[ファイル名を指定して実行]を選択し、[services.msc]を実行します。[サービス]ダイアログが表示されますので、Server サービスと Windows Management Instrumentation サービスの状態が「開始」、スタートアップの種類が「自動」であることを確認してください。(デフォルトでは「開始、自動」の設定になっています)。
- JobCenter をインストール／運用するためには、JobCenter が使用するネットワークのプロパティで「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」のチェックが ON になっている必要があります。(デフォルトでは ON の設定になっています)
- JobCenter インストールディレクトリや Windows ディレクトリ配下の各初期化ファイル、およびレジストリ情報をマニュアル記述範囲を超えて任意に変更した場合の動作は保証できません。
- 環境変数 temp と tmp について
JobCenter を利用するためには、環境変数 temp と tmp が設定されており、かつ設定されたフォルダが実際に存在している必要があります。
 特にローカルサイトの JobCenter サービスはシステムアカウントで動作しますので、TEMP と TMP の参照先が下記のとおり設定されていないと、ユーザーアプリケーションのコマンドが正常に動作しない場合があります。

Windows Server 2008 を利用している場合は、インストール前に以下のフォルダを作成してください。

<システムドライブ>¥Windows¥system32¥config¥systemprofile¥AppData¥Local¥Temp¥

Windows Server 2003 を利用している場合は、インストール前に以下のフォルダが存在するか確認し、存在しない場合は作成してください。

<システムドライブ>¥Documents and Settings¥Default User¥Local Settings¥Temp¥

上記のフォルダの作成が困難である場合は、JobCenter とは関連のない任意の場所にフォルダを作成し、環境変数設定ファイルの envvars ファイル中で temp および tmp 環境変数の値として設定してください。

設定例

temp=<テンポラリに使用できる実際に存在するフォルダ>

tmp=<テンポラリに使用できる実際に存在するフォルダ>

envvars ファイルの詳細についてはマニュアル「JobCenter 環境構築ガイド 14.2.3.2 JobCenter SV 側で設定する場合の対処 (envvars ファイル)」を参照してください。

- Windows クラスタ環境の注意事項

- クラスタサイトを構成する全てのノードで、JobCenter管理者として同じユーザ名でセットアップする必要があります。また、本ガイド「2.4.5 Windows版 (通常インストール)」の「一般的な注意事項」に記載の通り、当該ノードにおいてローカル管理者権限が必要となります。
- ローカルサイトとクラスタサイトを同時に動作させる場合、ローカルサイトの JobCenter 管理者がクラスタサイトの JobCenter 管理者も兼ねることになりますので、事前に十分検討した上でインストールしてください。
- JobCenter 管理者以外のユーザについても、クラスタサイトを構成する全てのノードでユーザ名と uid を統一する必要があります。
統一されていない場合、クラスタパッケージがフェイルオーバーするとユーザマッピングが適合せず、ジョブ実行が継続できなくなる可能性があります。
uid の変更は JobCenter の「サーバの環境設定」で行います。変更方法の詳細はマニュアル「JobCenter 環境構築ガイド 12.4.1 ユーザのプロパティ」を参照してください。
- ドメイン環境の場合、クラスタサイトを構成するノードの組み合わせに制限があります。
PDC とメンバサーバ、BDC とメンバサーバの組み合わせはできません。

- UNICODE 環境の場合の注意事項

JobCenter を UNICODE 環境でセットアップする場合は、以下の点に注意してください。

- 英語 OS + 英語版 JobCenter または中国語 OS + 中国語版 JobCenter の場合、必ず非 UNICODE(Non-Unicode Mode)を選択してください。UNICODE(Unicode Mode)を選択してインストールした場合、動作保証しておりません。
- 入力/出力に使用できる文字コードについて
ジョブネットワーク名、部品名、コメント、単位ジョブスクリプトなどの入力値
→ JIS90 互換の範囲でのみ入力可能
単位ジョブの標準出力、標準エラー出力
→ JIS2004 で規定される全ての文字が出力可能(CL/Win で表示可能)



JIS2004 で拡張された文字を表示するには、それらを表示可能なフォントパッケージが OS にインストールされている必要があります。

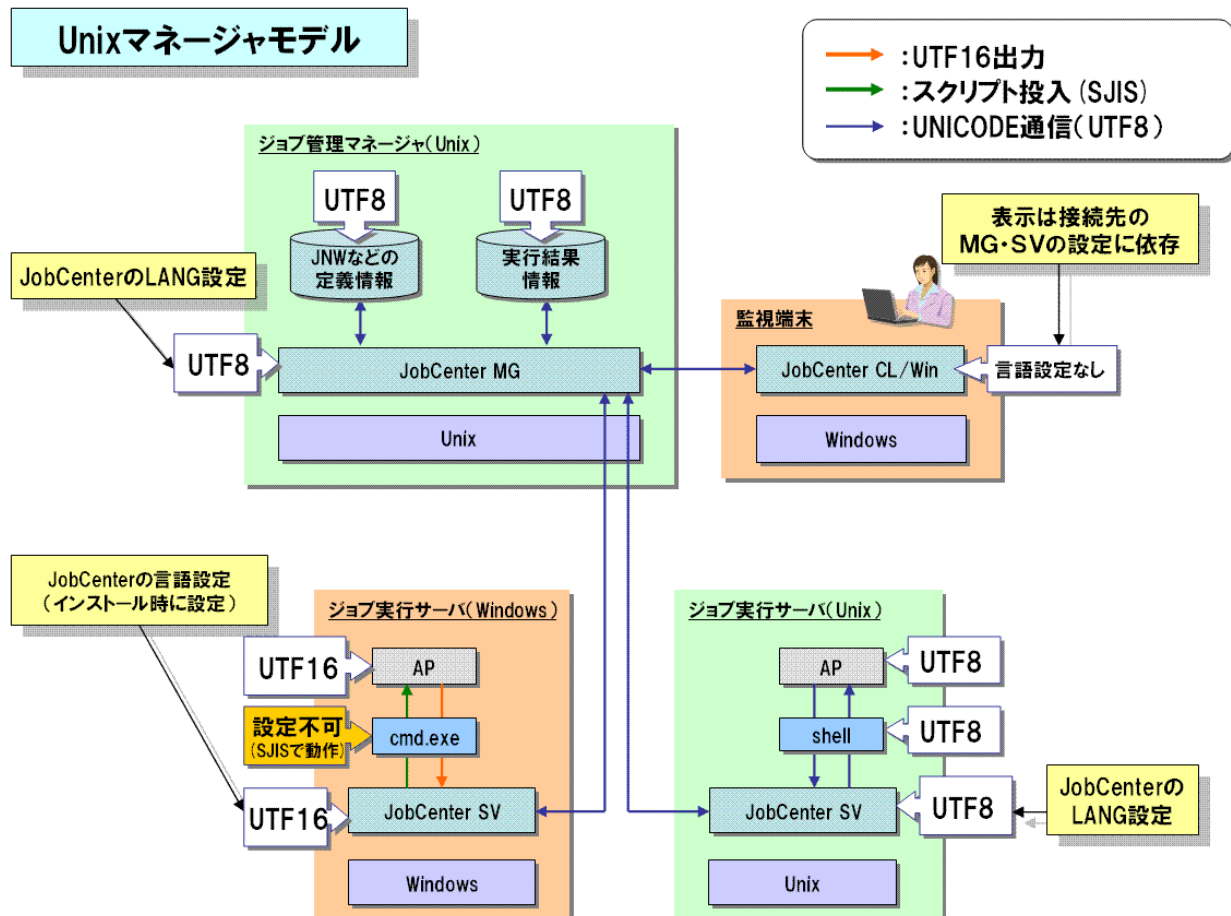


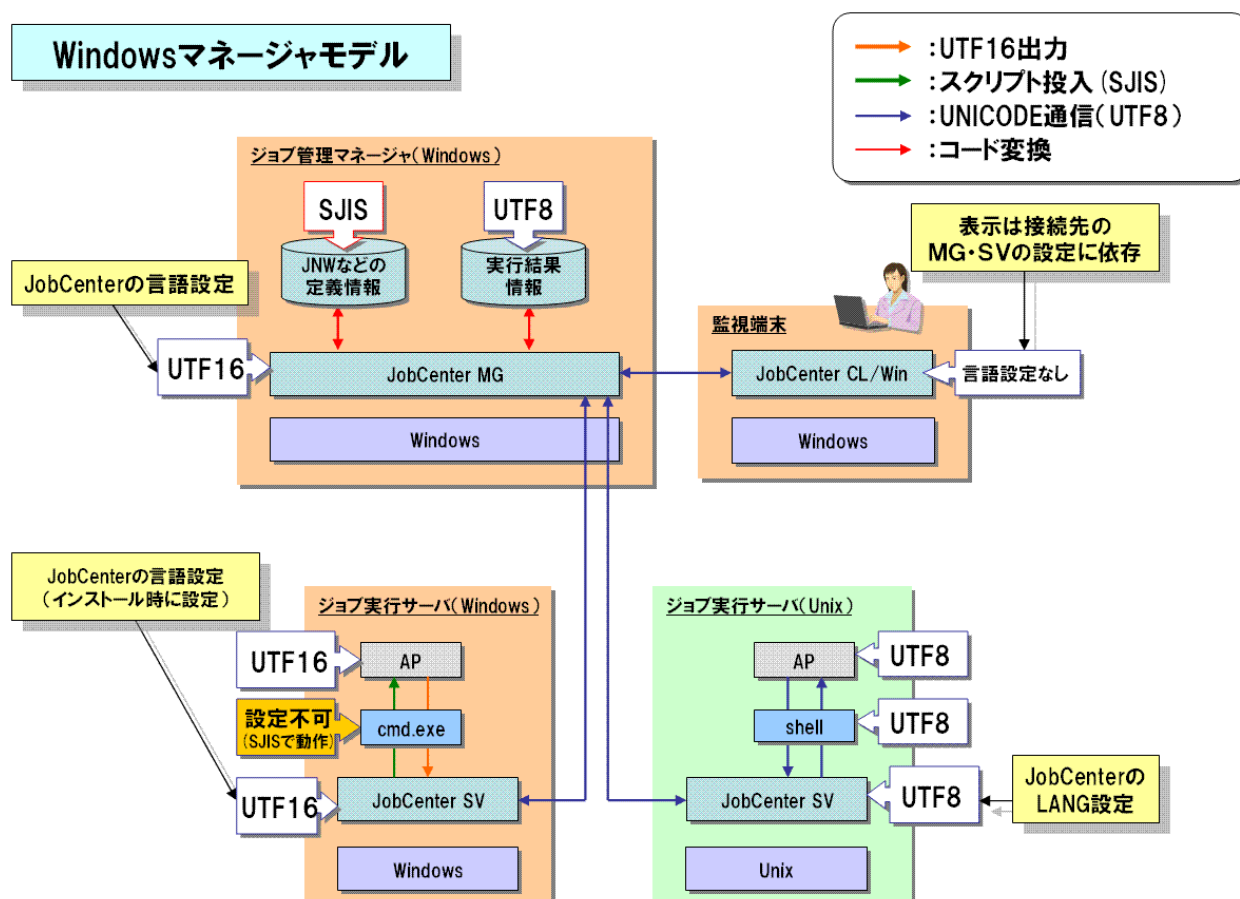
SAP ERP Option 機能および BI Option 機能を利用する場合は、必ず JobCenter の言語設定で非 UNICODE 環境で構築してください。UNICODE 環境で構築された JobCenter では、これらの機能は利用できません。かつ、接続先の SAP システムが Unicode 版の場合は、あらかじめ環境変数 SAP_CODEPAGE を設定しておく必要があります。詳細につきましては、「WebSAM JobCenter SAP 機能利用の手引き」を参照してください。

- UNIX 版と Windows 版の差分について

UNIX 版 JobCenter では、ジョブの実行時に LANG が UTF-8 として実行され、ジョブの出力結果も UTF-8 として処理され保存されます。それに対し Windows 版 JobCenter では、コマンド実行シェル(cmd.exe)が SJIS のスクリプトのみの動作となるとため、各種ファイルは SJIS で定義されます。ただし、ジョブの実行は UTF-16 として行われ(これは内部的にはコマンドプロンプト上で、/U オプションを使用したのと同じ動作です)、出力結果は UTF16 で出力となりますが、JobCenter がデータとして保存する場合にはこれを UTF-8 に変換して格納します。

以下に UNIX 版 JobCenter をマネージャとして構成した場合のモデルと、Windows 版 JobCenter をマネージャとして構成した場合のモデルを例として示します。





■ 接続互換性について

文字コードの差異における下位バージョンとの接続互換性は以下の通りです。

・ MG-SV の接続互換性

		～R12.6.x(MG)		R12.7(MG)～		
		EUC	SJIS	UNICODE	EUC	SJIS
～ R12.6.x(SV)	EUC	○	○	×	○	○
	SJIS	○	○	×	○	○
R12.7(SV) ～	UNICODE	×	×	○	×	×
	EUC	○	○	×	○	○
	SJIS	○	○	×	○	○

・ CL/Win-MG/SV の接続互換性

		～R12.6.x(MG)		R12.7(MG)～		
		EUC	SJIS	UNICODE	EUC	SJIS
CL/Win	～R12.6.x	○	○	×	○	○
	R12.7～	○	○	○	○	○

⚠ UNICODE 環境を利用する場合、JobCenter を利用する MG,SV 全てを UNICODE 環境で統一する必要があります。従って、異なる文字コードでセットアップされた他のマシンをマネージャフレームのマシン一覧には追加することはできません。(nmapmgr サブコマンドを使うと追加できますが、動作保証しません。)

⚠ UNICODE 同士であっても、UNIX と Windows 間で転送した単位ジョブリクエストは、ジョブネットワーク名や単位ジョブ名に日本語が含まれる場合、qmgr サブコマンドで show long queue で表示するとキュー内ジョブリクエストに表示されるパスが文字化けします。

■ バージョンアップについて

UNIX 版 JobCenter R12.6 以前をインストール済みの環境において、JobCenter R12.7 以降にバージョンアップし、文字コードとして UNICODE を選択した場合、既存のジョブネットワークの定義データを引き継ぐことができません。既存の定義データを引き継ぎたい場合は、UNICODE 以外を選択してください。

■ インポート・エクスポート機能について

エクスポートしたデータを、文字コードが異なる環境にはインポートできません。したがって、JobCenter R12.6 以前の環境でエクスポートしたデータを、JobCenter R12.7 以降の UNICODE 環境にインポートすることはできません。

■ イベント連携について

イベント連携の設定において EVENTIF が SS(デフォルト)の場合、UNICODE 環境では利用できません。



SystemManager の場合、プラットフォームによっては UTF-8 のテキストログ監視機能がサポートされているものもあり、連携可能な場合もあります。詳しくは SystemManager のマニュアルをご確認ください。

■ ログについて

前述のイベントのテキストログ出力や操作・実行ログ、エラーログは、UNIX 版と Windows 版では出力される文字コードが異なりますのでご注意ください。

- UNIX 版：セットアップ時の文字コードに依存
- Windows 版：常に SJIS

2.1.2 ネットワークを設定する

JobCenter は、TCP/IP ネットワークの設定が正しく行われていることを前提として動作します。マシンの正式ホスト名から IP アドレスを求め、その IP アドレスから得られたホスト名が正式ホスト名に一致していない場合、JobCenter は動作できません。このチェックはドメインの有無まで行いますので、正確に一致するように設定してください。

複数のマシンで JobCenter を運用する場合、すべてのマシンでホスト名や IP アドレスのデータが一致している必要があります。DNS や hosts ファイルの更新漏れなどがないように十分に注意してください。

また、CJC オプションを使用しないで複数のネットワークカードが実装されている場合、最も優先されるネットワークカード上で動作します。たとえば、UNIX 環境の場合、hostname コマンドで返却されるホスト名を使って JobCenter は動作します。

ネットワークの設定の詳細については、「JobCenter 環境構築ガイド 2. ネットワーク環境構築」を参照してください。



UNIX 環境で複数のネットワークカードに対して、同じホスト名や IP アドレスを割り当てられている場合、インストールや初期設定が行えることがありますが、誤動作の原因になりますので、インストールや初期設定は行わないでください。

また、Windows 環境の場合は resolv.def ファイルによる名前解決指定が必要になる場合があります。「JobCenter 環境構築ガイド 2.3 Windows でネットワーク環境を構築する場合」も参照してください。

ネットワークを設定する際には、次の事項に注意してください。

- ◆ ホスト名の名前解決において、正引／逆引が行えること。
- ◆ 正引／逆引で、エイリアス名(別名)ではなくホストの正式名が一致すること。
- ◆ 複数のネットワークカードを実装している場合、個々のネットワークカードに一意のホスト名／IP アドレスが割り当てられていること。
- ◆ JobCenter の連携を行うホスト間で、ホスト名／IP アドレスのデータが一致していること。
- ◆ JobCenter がセットアップされるホスト間にファイアウォールが存在する場合、ファイアウォールに対して JobCenter が使用するネットワークポートの穴あけ作業をすること。
- ◆ Windows XP Professional(SP2 以上)、Windows Server 2003(SP1 以上)、Windows Server 2008 に JobCenter MG/SV をセットアップした場合、Windows ファイアウォールの例外設定を行うこと。特に Windows Server 2008 環境では、デフォルトでファイアウォールの設定が ON になっていますので注意してください。
ファイアウォールの例外設定を行う際のポート番号については、「JobCenter 環境構築ガイド 2.1 JobCenter で使用する TCP ポート」を参照してください。
- ◆ 利用する TCP/IP ポート番号が、他のサービスと競合しないこと。JobCenter で利用するポート番号の設定変更については、「JobCenter 環境構築ガイド 2.1 JobCenter で使用する TCP ポート」を参照してください。



インストール・セットアップ完了後、CL/Win で MG/SV に接続すると、マシニー覧に表示される

マシンアイコンについて、同一マシンが「ホスト名のみ」と「FQDN」の 2 通りでアイコンが 2 個表示される場合があります。これはセットアップやマシングループへのマシン追加の際に、FQDN で認識されるマシンについては自動的にホスト名のみの「エイリアス名」を別名として設定するためです。

エイリアス名はマネージャフレームのマシン一覧表示で運用上の役割で識別したい場合や、nmapmgr や qmgr サブコマンドにおける利便性向上のために利用することができます。(ただし有効範囲は自マシン(サイト)内だけです。通信上の名前解決には使用できません)

エイリアス名が不要な場合は、CL/Win からではなく nmapmgr コマンドで削除することができます。「JobCenter コマンドリファレンス 3.12 nmapmgr (3)サブコマンド」の「Delete Name \$alias」を参照してください。

2.1.3 マシンIDを割り当てる

JobCenter では、インストール時にそのシステム内で一意となるマシンID を割り当てる必要があります。マシン ID は 1～2147483647 の間の整数値を指定します。マシン ID を割り当てる際には、次の事項に注意してください。

- ◆ 複数のマシンで JobCenter を使う場合には、マシン ID が重複しないこと。
たとえば、UNIX のマネージャマシンから複数の Windows のサーバマシンへ単位ジョブの転送を行う場合などで、マシン ID が重複していると正常に動作できません。ローカルサイトとクラスタサイト間でも重複することはできません。
- ◆ 設定後にマシン ID を変更する場合に備えて、最初に運用ルールを決めておくこと。
各マシンは別マシンのマシン ID も保持する場合があります。この各マシンの持つ他マシン ID の情報が一致していないと予期せぬ動作を引き起こす可能性があります。システム内の各マシンでローカルサイトやクラスタサイトのマシン ID を変更する場合、運用ルール未整備で一部のマシンに更新漏れがあると、ジョブ転送先キューが認識できなくなるなど誤動作の原因になります。

2.2 LicenseManagerをインストールする

LicenseManager はライセンス管理用製品です。

JobCenter は、LicenseManager を使用してライセンスチェックを行います。

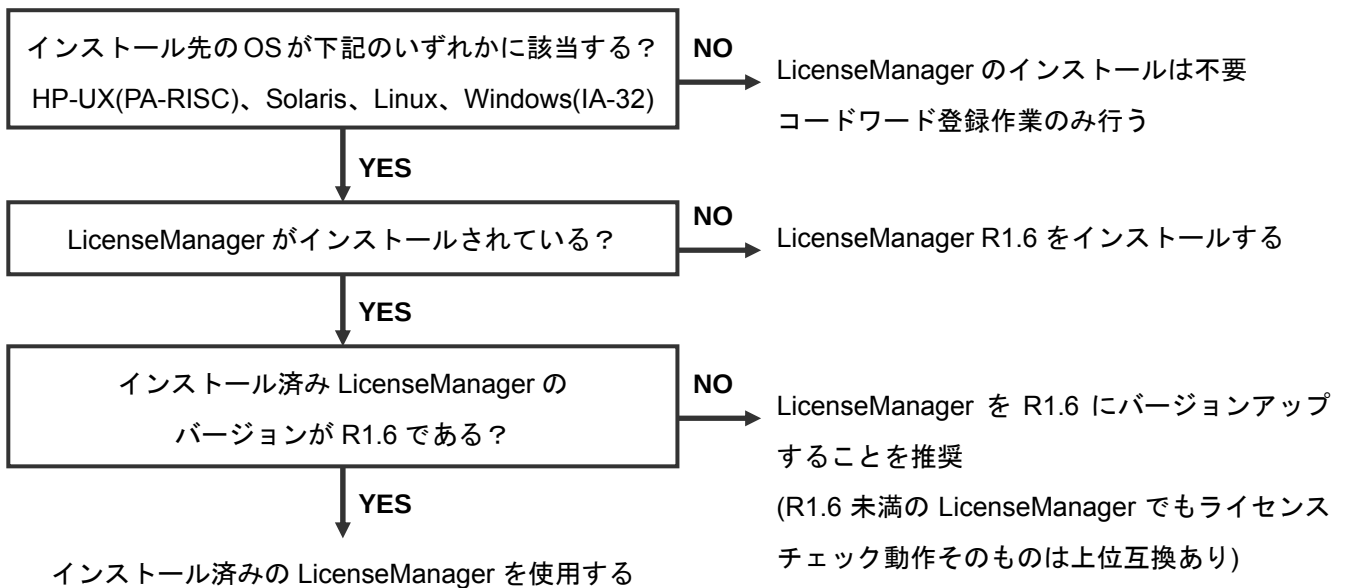
JobCenter 製品をインストールする前に、LicenseManager をインストールしてください。

LicenseManager のインストールの要/不要は、下図を参照して判定してください。LicenseManager がインストール済みかどうか、およびバージョンを確認する具体的な方法は、次節以降の OS ごとの説明を参照してください。

LicenseManager R1.6 では、下記の点が改善されていますので、R1.6 より前のバージョンの LicenseManager がインストールされている場合は、R1.6 へのバージョンアップを推奨します。

(R1.6 以前のバージョンのままだでも、ライセンスチェック動作そのものには上位互換性があるため問題はありません)

- コードワード登録後の JobCenter 起動時のライセンスチェックにおいて、コードワードを登録していない型番についての警告メッセージをイベントログ(Windows)および syslog(Linux/UNIX)へ出力しないように改善
- 型番を指定してお試し期間の残日数を確認できるコマンドを追加



2.2.1 HP-UX版

2.2.2 Solaris版

2.2.3 Linux版

2.2.4 AIX版

2.2.5 Windows版

2.2.1 HP-UX版

(1) 必要メモリ容量

LicenseManager をインストールして動作させるには、次の固定ディスク容量および使用メモリ容量が必要です。

表 2-1 LicenseManager のインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量(HP-UX 版)

固定ディスク容量	メモリ容量
/opt : 1 MB	3 MB
/etc : 1 MB	
/usr : 1 MB	

(2) LicenseManagerのインストール

LicenseManager をインストールするには、次に示す手順で行います。

<1> LicenseManager の確認

<2> LicenseManager のインストール

インストール作業の具体的な手順は次の通りです。

<1> LicenseManagerの確認

- ① マシンを立ち上げ、ログイン名「root」でログインします。

```
login:root ↵
```

- ② LicenseManager のインストールを行う前に、LicenseManager がすでにインストールされていないかどうかを確認します。

```
root> /usr/sbin/swlist NECWSLM ↵
```

- 次のように表示された場合、LicenseManager をインストールする必要はありません。
< LicenseManager R1.6 がすでにインストールされている場合>

```
# NECWSLM 1.6 WebSAM LicenseManager
NECWSLM.NECWSNLESD 1.6 WebSAM LicenseManager
```

- 次のように表示された場合、LicenseManager のバージョンアップを推奨します。
< R1.6 より古い LicenseManager がインストールされている場合>

```
# NECWSLM 1.3.00 WebSAM LicenseManager
NECWSLM.NECWSNLESD 1.3.00 WebSAM LicenseManager
```

※上記の例では 1.3.00 ですが、この部分が 1.6 でない場合は古いバージョンです。

バージョンアップは、古いバージョンをアンインストールした後に新しいバージョンをインストールすることで行います。アンインストールの方法は、「4.1 LicenseManagerをアンインストールする」を参照してください。

- 次のように表示された場合は、引き続き LicenseManager のインストールを行います。
<LicenseManager パッケージがインストールされていない場合>

```
Software "NECWSLM" was not found on host "hostname:/".
```

<2> LicenseManagerのインストール

LicenseManager は JobCenter メディアに同梱されています。次の手順に従ってインストールしてください。

- ① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットします。

JobCenter メディアは RockRidge 形式で作成されていますので、HP-UX で CD-ROM をマウントする際は、次のように mount コマンドでマウントします。

- root ユーザでログインし、ioscan コマンドでデバイス名の確認を行ってください。

```
root> /usr/sbin/ioscan -fnu -Cdisk
```

- JobCenter メディア(CD-ROM)をセットし、次のコマンドを実行します。

```
root> /usr/sbin/mount -F cdfs -o rr <device-name> <mount-point>
```

マウントポイント(<mount-point>)およびデバイス名(<device-name>)はシステムにあわせて適切に指定してください。

- ② 次のコマンドを実行してインストールします。

```
root> /usr/sbin/swinstall -s <WSLM_PRODUCT_PATH> NECWSLM ↵
```

備考 <WSLM_PRODUCT_PATH>はプロダクトのファイルパスです。実際の入力値は、JobCenter メディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

インストール実行中にメッセージが表示されますが、エラー表示がなければインストールは正常に終了します。

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照して対処を行ってください。

インストーラのエラーに関しては HP-UX の製品マニュアル等を参照してください。

- ③ 次のコマンドによりインストール結果を確認します。

```
root> /usr/sbin/swlist NECWSLM ↵
```

- 次のように表示されればインストールは正常に終了しています。

```
# NECWSLM 1.6 WebSAM LicenseManager
NECWSLM.NECWSNLESD 1.6 WebSAM LicenseManager
```

2.2.2 Solaris版

(1) 必要メモリ容量

LicenseManager をインストールして動作させるには、次の固定ディスク容量および使用メモリ容量が必要です。

表 2-2 LicenseManager のインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量(Solaris 版)

固定ディスク容量	メモリ容量
/opt : 1 MB	3 MB
/etc : 1 MB	
/usr : 1 MB	

(2) LicenseManagerのインストール

LicenseManager をインストールするには、次に示す手順で行います。

<1> LicenseManager の確認

<2> LicenseManager のインストール

インストール作業の具体的な手順は次の通りです。

<1> LicenseManagerの確認

- ① マシンを立ち上げ、ログイン名「root」でログインします。

```
login:root ↵
```

- ② LicenseManager のインストールを行う前に、LicenseManager がすでにインストールされていないかどうかを確認します。

```
root> /bin/pkginfo -l NECWSLM ↵
```

- 次のように表示された場合、LicenseManager をインストールする必要はありません。
<LicenseManager R1.6 がすでにインストールされている場合>

```
PKGINST: NECWSLM
NAME: WebSAM License Manager
CATEGORY: application
ARCH: Solaris
VERSION: 1.6
--(以下、省略)--
```


- 次のように表示された場合、LicenseManager のバージョンアップを推奨します。
< R1.6 より古い LicenseManager がインストールされている場合 >

```
PKGINST:  NECWSLM
NAME:      WebSAM License Manager
CATEGORY:  application
ARCH:      Solaris
VERSION:   Release1.3 Rev00
--(以下、省略)--
```

※上記の例では 1.3 ですが、この部分が 1.6 でない場合は古いバージョンです。
バージョンアップは、古いバージョンをアンインストールした後に新しいバージョンをインストールすることで行います。アンインストールの方法は、「4.1 LicenseManagerをアンインストールする」を参照してください。

- 次のように表示された場合は、引き続き LicenseManager のインストールを行います。
<LicenseManager がインストールされていない場合 >

```
ERROR: information for "NECWSLM" was not found
```

<2> LicenseManagerのインストール

LicenseManager は JobCenter メディアに同梱されています。次の手順に従ってインストールしてください。

- ① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットしてマウントします。マウント方法は Solaris の製品マニュアル等を参照してください。
- ② 次のコマンドを実行してインストールを行います。

```
root> /bin/pkgadd -d <WSLM_PRODUCT_PATH> ↵
```

備考 <WSLM_PRODUCT_PATH>は、プロダクトのファイルパスです。実際の入力値は JobCenter メディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

インストール実行中にメッセージが表示されますが、エラー表示がなければインストールは正常に終了しています。

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照し、対処を行ってください。

インストーラのエラーに関しては、Solaris の製品マニュアル等を参照してください。

- ③ 次のコマンドによりインストール結果を確認します。

```
root> /bin/pkginfo -l NECWSLM ↵
```

- STATUS: の項が次の表示になっていればインストールは正常に終了しています。

```
completely installed
```

2.2.3 Linux版

(1) 必要メモリ容量

LicenseManager をインストールして動作させるには、次の固定ディスク容量および使用メモリ容量が必要です。

表 2-3 LicenseManager のインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量(Linux 版)

固定ディスク容量	メモリ容量
/opt : 1 MB	1 MB
/etc : 1 MB	
/usr : 1 MB	

(2) LicenseManagerのインストール

LicenseManager をインストールするには、次に示す手順で行います。

<1> LicenseManager の確認

<2> LicenseManager のインストール

インストール作業の具体的な手順は次の通りです。

<1> LicenseManagerの確認

- ① マシンを立ち上げ、ログイン名「root」でログインします。

```
login:root ↵
```

- ② LicenseManager のインストールを行う前に、LicenseManager がすでにインストールされていないかどうかを確認します。

```
root> /bin/rpm -qa NECWSLM ↵
```

- 次のように表示された場合、LicenseManager をインストールする必要はありません。
<LicenseManager R1.6 がすでにインストールされている場合>

```
NECWSLM-1.6-1
```

- 次のように表示された場合、LicenseManager のバージョンアップを推奨します。
<R1.6 より古い LicenseManager がインストールされている場合>

```
NECWSLM-1.3.00-1
```

※上記の例では 1.3.00 ですが、この部分が 1.6 でない場合は古いバージョンです。バージョンアップは、古いバージョンをアンインストールした後に新しいバージョンをインストールすることで行います。アンインストールの方法は、「4.1 LicenseManagerをアンインストールする」を参照してください。

- 何も表示されなかった場合、LicenseManager はインストールされていません。引き続き LicenseManager のインストールを行います。

<2> LicenseManagerのインストール

LicenseManager は JobCenter メディアに同梱されています。次の手順に従って、インストールしてください。

- ① JobCenter メディア (CD-ROM) をセットしてマウントします。マウント方法は Linux の製品マニュアル等を参照してください。
- ② 次のコマンドによりインストールを実行します。

- ◆ IA32 および EM64T/AMD64 の場合

```
root> /bin/rpm -i <WSLM_PRODUCT_PATH> ↵
```

- ◆ IA64(IPF)の場合

```
root> /bin/rpm -i --define "_autorelocate_path %{nil}"  
<WSLM_PRODUCT_PATH> ↵
```

備考 <WSLM_PRODUCT_PATH>は、プロダクトのファイルパスです。実際の入力値は JobCenter メディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

- 次のメッセージが表示されれば、インストールは正常に終了しています。

```
***** now installing *****  
Installation was successful.
```

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照し、対処を行ってください。

インストーラのエラーに関しては Linux の製品マニュアル等を参照してください。

- ③ 次のコマンドによりインストール結果を確認します。

```
root > /bin/rpm -qa NECWSLM ↵
```

- 次のように表示されればインストールは正常に終了しています。

```
NECWSLM-1.6-1
```

2.2.4 AIX版

LicenseManager のインストールは必要ありません。

「2.3 コードワードを登録する」の.lockinfoファイルへのコードワード登録のみ行ってください。

2.2.5 Windows版

32bit 版 Windows について、LicenseManager をインストールします。

64bit版Windows(IA-64(IPF)、x64/EM64T/AMD64)の場合はLicenseManagerのインストールは不要です。

「2.3 コードワードを登録する」のlockinfoファイルへのコードワード登録のみ行ってください。

(1) 必要メモリ容量

LicenseManager をインストールし、動作させるには次の固定ディスク容量および使用メモリ容量が必要です。

表 2-4 LicenseManager のインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量(Windows 版)

固定ディスク容量	メモリ容量
2 MB	2 MB

(2) LicenseManagerのインストール

LicenseManager をインストールするには、次に示す手順で行います。

<1> LicenseManager の確認

<2> LicenseManager のインストール

<1> LicenseManagerの確認

- ① マシンを立ち上げ、Administrator 権限のあるユーザでログインします。
- ② LicenseManager のインストールを行う前に、LicenseManager がすでにインストールされていないかどうかを確認します。

③ 【Windows XP, Server 2003】

〔スタート〕－〔設定〕－〔コントロールパネル〕でコントロールパネルを表示させます。〔プログラムの追加と削除〕画面で〔WebSAM LicenseManager(MainPart)〕のエントリーがないことを確認します。

【Windows Vista, Server 2008】

〔スタート〕－〔設定〕－〔コントロールパネル〕でコントロールパネルを表示させます。〔プログラムと機能〕画面で〔WebSAM LicenseManager(MainPart)〕のエントリーがないことを確認します。

- ④ LicenseManager がすでに存在していた場合は、バージョンを確認します。確認方法は、下記のとおりです。

【Windows XP, Server 2003】

〔プログラムの追加と削除〕画面で〔WebSAM LicenseManager(MainPart)〕のエントリーの「サポート情報を参照するには、ここをクリックしてください。」をクリックし、サポート情報ダイアログを表示させます。

【Windows Vista, Server 2008】

[プログラムと機能] 画面の [表示(V)] メニューから [詳細表示の設定] を選択し、[バージョン] にチェックを入れることで、バージョン情報が表示されます。

バージョンが 1.6 ではない場合、LicenseManager のバージョンアップを推奨します。

バージョンアップは、古いバージョンをアンインストールした後に新しいバージョンをインストールすることで行います。アンインストールの方法は、「4.1 LicenseManager をアンインストールする」を参照してください。

- ⑤ LicenseManager が存在しなかった場合は、引き続き LicenseManager のインストールを行います。
- ⑥ なお LicenseManager 1.6 以降は、インストールの際に Windows Installer 3.1 以上が必要になります。Windows Installer 3.1 がインストールされているか、事前に確認してください。

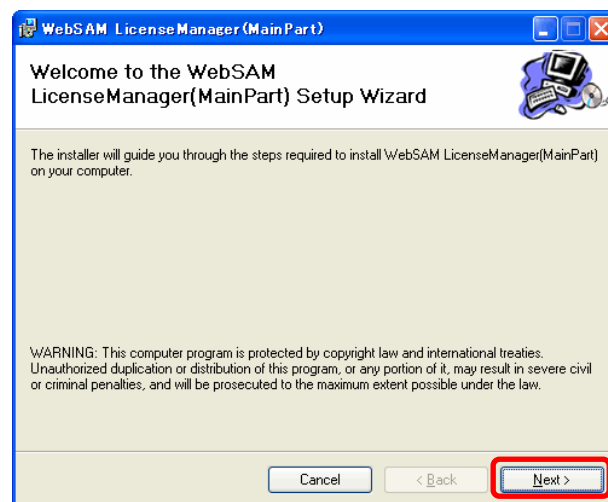
Windows Installer のバージョン確認方法やインストーラの入手についての詳細は Microsoft の次のページを参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/893803>

<2> LicenseManager(MainPart)のインストール

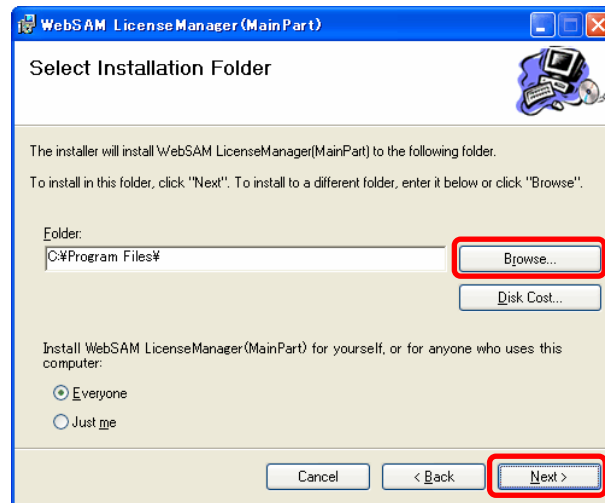
LicenseManager は JobCenter のメディアに同梱されています。次の手順に従ってインストールしてください。

- ① JobCenter のメディアから、パッケージファイル (setup.exe および lmsetup.msi) をローカルディスク上の任意の同一フォルダ内にコピーします。ここでは、C:\%setup.exe および C:\%lmsetup.msi にコピーします。
- ② コピーした setup.exe ファイルを実行し、LicenseManager のインストーラを起動します。
- ③ 次のような画面が表示されますので、[Next>] ボタンをクリックします。



- ④ 「Select Installation Folder」画面が表示されます。

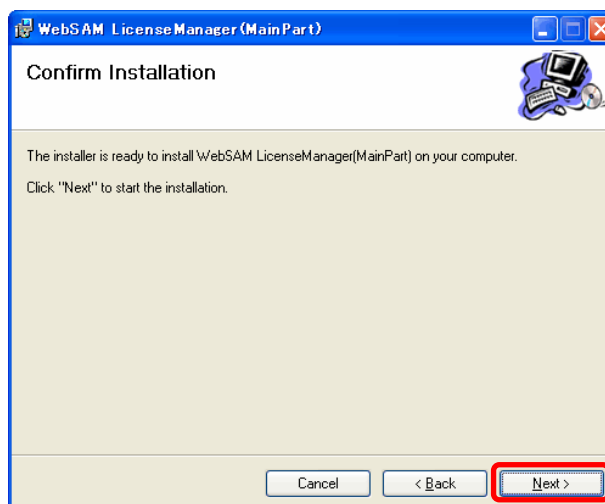
インストール先のフォルダを決定後、[Next>] ボタンをクリックします。



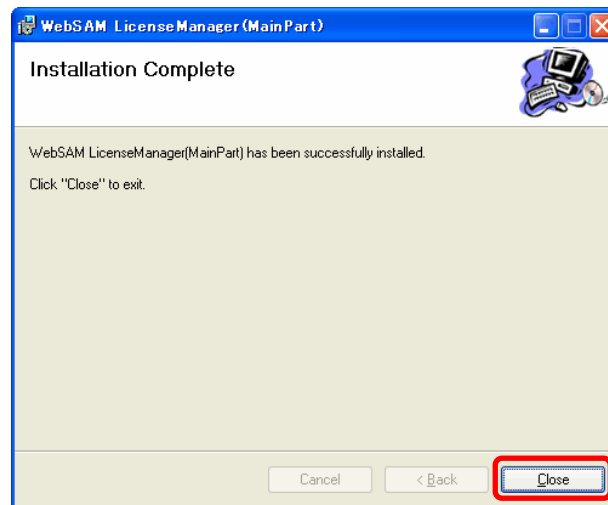
注 既定のインストール先フォルダを変更する場合には、[Browse...] ボタンをクリックして、表示された画面の指示に従ってインストール先のフォルダを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

- ⑤ 確認画面が表示されます。

設定が完了したら [Next>] ボタンをクリックします。設定内容を変更する場合は、[< Back] ボタンをクリックし各項目の画面まで戻って設定をやり直します。



- ⑥ すべてのインストールが完了すると次の画面が表示されます。
[Close] ボタンをクリックしてください。

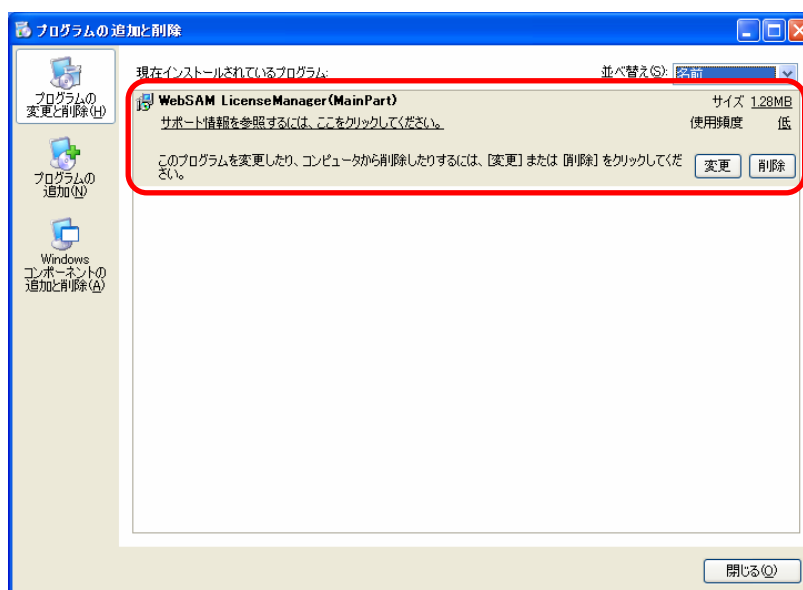


再起動を促すメッセージが表示された場合は、JobCenter プロダクトをインストールする以前に、必ずシステムを再起動してください。

ここまでで、「LicenseManager(Main Part)」のインストール作業は完了です。

最後に、インストールが正常に終了したかを確認します。

- ⑦ Windows の [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] で「プログラムの追加と削除」を実行します。
次の画面例のように「WebSAM LicenseManager(Main Part)」のエントリが表示されていれば正常に終了しています。



2.3 コードワードを登録する

LicenseManager のインストールが終了したあとで、JobCenter をセットアップする前に、ライセンス解除のためのコードワードの登録を行います。

2.3.1 コードワードの登録作業

2.3.2 コードワードの確認作業

2.3.3 LicenseManagerインストール後に出力されるメッセージ

2.3.1 コードワードの登録作業

次のファイルに対して、コードワードの登録を行います。

- UNIX の場合 : /etc/opt/wsnlesd/.lockinfo
- Windows の場合 : %InstallDirectory%\wsnlesd\etc\opt\wsnlesd\lockinfo

備考 %InstallDirectory%は LicenseManager をインストールしたディレクトリを示します。デフォルトは OS をインストールしたドライブの¥Program Files です。

OSが HP-UX 11i v2 for Itanium, AIX および 64bit 版 Windows(IPF, x64)の場合は、LicenseManager のインストールは不要ですので、コードワードの登録のみ行います。

.lockinfo (または lockinfo) ファイルはテキスト形式で新規に作成してください。

UNIX の場合は存在しないサブディレクトリを上記の通りに作成します。

Windows の場合は暫定的に C:¥Program Files¥wsnlesd\etc\opt\wsnlesd\lockinfo として作成してください。

それぞれの.lockinfo(lockinfo)ファイルに「型番 コードワード」の形式で登録します。

次の例のように、型番とコードワードの間は 1 個以上のスペースまたはタブで区切ってください。

[.lockinfo(lockinfo)ファイルへの登録例]

```
UQ4322-H0C4A1 reYrD4Eyh0Viab9BCPnw0RzmlG76acjKHRV9Vp%Yyr0l
UQ4370-H0C1B1 u4v%daE6VNGKk2VdrS50yQwuofQCbb0#lSUVdqv4Pi8z
UQ4343-H0C1A1 Ses3s1VedNUShcoJkYR46MjqHDTKpdj#dQXZEvtMvrxz
... ..
```

備考 コードワードの登録を行わない場合でも、お試し期間の 60 日間は JobCenter を使用することが可能です。お試し期間を過ぎると、JobCenter の再起動ができなくなるので注意してください。LicenseManager のバージョンが R1.6 以降の場合は、wsnlcheck コマンドを使ってお試し期間の残日数を確認できます。wsnlcheck コマンドの使い方は、次頁を参照してください。

2.3.2 コードワードの確認作業

ライセンスロックの解除状態は、次のコマンドで確認できます。

備考 OS が HP-UX(IPF)、AIX、64bit 版 Windows (IA-64(IPF)、x64/EM64T/AMD64)の場合は、確認作業は不要です。

LicenseManager 自体をインストールしないため、コードワードの正常性チェックの方法はありません。JobCenter が正常に起動し、動作していれば問題ありません。

なお将来的に実装が変更される可能性がありますので、必ず前項の手順に従って所定の位置に.lockinfo(または lockinfo)ファイルを作成し、発行されたコードワードをミスのないよう転記して登録しておいてください。

【LicenseManager R1.6 以降の場合】

- UNIX の場合 : /opt/wsnlesd/bin/wsnlcheck 型番
- Windows の場合 : %InstallDirectory%\wsnlesd\bin\wsnlcheck 型番

出力結果により、下記の状態であることが分かります (XXXXXX-XXXXXX は型番を表します)。

XXXXXX-XXXXXX "LICENSED"

例 : UQ4321-X0Y1Z2 "LICENSED"

意味 : 正しくライセンス解除できています。

No license of XXXXXX-XXXXXX

例 : No license of UQ4321-X0Y1Z2

意味 : 指定した型番に関するライセンス情報はありません。

コードワードを未登録かつ JobCenter をインストールしていない場合に表示されます。

コードワード登録後に表示された場合は、コードワードが正しく認識されていません。

下記の項目を確認してください。

- ◆ .lockfile(lockfile)に登録したコードワードに間違いはありませんか？
- ◆ .lockfile(lockfile)に登録した型番は、コードワード申請時に指定した型番と一致していますか？
- ◆ マシンの IP アドレスは、コードワード申請時に指定した IP アドレスと一致していますか？

XXXXXX-XXXXXX "TRIAL" (until YYYY/MM/DD)

例 : UQ4321-X0Y1Z2 "TRIAL" (until 2009/08/31)

意味 : YYYY/MM/DD まで、お試し期間中です。

コードワード登録後に表示された場合は、コードワードが正しく認識されていません。

下記の項目を確認してください。

- ◆ .lockfile(lockfile)の作成ディレクトリおよびファイル名に間違いはありませんか？
- ◆ .lockfile(lockfile)に登録した型番に間違いはありませんか？

XXXXXX-XXXXXX "NO LICENSE(TRIAL)" (expired YYYY/MM/DD)

例 : UQ4321-X0Y1Z2 "NO LICENSE(TRIAL)" (expired 2009/08/31)

意味 : YYYY/MM/DD で、お試し期間が終了しています。

【LicenseManager R1.5 以前の場合】

- UNIX の場合 : /opt/wsnlesd/bin/wsnlesd -p 型番
- Windows の場合 : %InstallDirectory%\wsnlesd\bin\wsnlesd -p 型番

※ R1.6 以降にも、このコマンドは含まれますが、より多くの情報が表示される wsnlcheck のご利用を推奨します。

出力結果により、下記の状態であることが分かります（XXXXXX-XXXXXX は型番を表します）。

XXXXXX-XXXXXX ""

例 : UQ4321-X0Y1Z2 ""

意味 : 正しくライセンス解除できています。

XXXXXX-XXXXXX "TRIAL"

例 : UQ4321-X0Y1Z2 "TRIAL"

意味 : お試し期間中です。

コードワード登録後に表示された場合は、コードワードが正しく認識されていません。

下記の項目を確認してください。

- ◆ .lockfile(lockfile)に登録した型番に間違いはありませんか？

Error ErrorMessage<<Main()>>:License_Check() failed. rc : ?

例 : Error<<Main()>>:License_Check() failed. rc : 3

意味 : 処理中にエラーが発生しました。コードワードが正しく登録されていません。

下記の項目を確認してください。

- ◆ rc : 3 の場合、.lockfile(lockfile)に登録したコードワードに間違いはありませんか？
- ◆ rc : 4 の場合、.lockfile(lockfile)に登録した型番は、コードワード申請時に指定した型番と一致していますか？
- ◆ rc : 5 の場合、マシンの IP アドレスは、コードワード申請時に指定した IP アドレスと一致していますか？

2.3.3 LicenseManagerインストール後に出力されるメッセージ

LicenseManager インストール後、次のようなメッセージが syslog(Windows の場合はイベントログ)に出力される場合があります。

- UNIX の場合
日付 時刻 ホスト名 wsnlesd: The license of this 型番-* is invalidated on YYYY/MM/DD. ^{注1}
- Windows の場合
The license of this 型番-* is invalidated on YYYY/MM/DD.

注 1. 「型番-*」の記述は、例えば「UW0312-H2NA00」といった製品型番の「-」よりも前の記載部分を示しています。メッセージには「UW0312-*」などと表示されます。

上記メッセージは「型番-*」の製品がお試し期間に入っていることおよびその有効期限を示すメッセージです。これらは、コードワードが登録されていない JobCenter 製品の型番ごとに出力されます。当該型番「型番-*」のコードワードが正しく登録されていれば出力されません。

ライセンス登録後に上記メッセージが出力される場合、出力されたメッセージの型番部分を確認して、.lockinfo(lockinfo)ファイルに登録したコードワードの型番に該当するかどうかを確認してください。

◆ **登録済みの型番について上記メッセージが出力された場合**

コードワードが正しく設定されていない可能性があります。「2.3.1 コードワードの登録作業」の wsnlesd コマンドによる確認方法を参照して、コードワードの登録状態を再度確認してください。

◆ **出力されたすべてのメッセージの「型番-*」が、登録したコードワードの型番に該当しない場合**

メッセージは無視してかまいません。登録されたコードワードにより、ライセンスは解除されます。このメッセージは、メッセージ中に明示された有効期限が過ぎると出力されなくなります。

(なお、上記の期限切れ警告メッセージを抑制する方法はありません)

.lockinfo(lockinfo)ファイルに次のコードワードが登録されている場合の例を示します。

(例)

• **登録されている型番**

```
UW0312-H2NA00 reYrD4Eyh0Viab9BCPnw0RzmlG76acjKHRV9Vp%Yyr0l
```

次のようなメッセージが syslog に出力されます。

```
Mar 1 15:35:02 shaker wsnlesd: The license of this UQ4321-* is invalidated  
on 2005/04/30.  
Mar 1 15:35:02 shaker wsnlesd: The license of this UQ4322-* is invalidated  
on 2005/04/30.
```

しかし、出力されたメッセージは登録した「UW0312-*」以外の型番に関するものであるため、このメッセージは無視してかまいません。「UW0312-*」についてはライセンス解除されているため、JobCenter は問題なく起動します。

2.4 JobCenter MG/SVをインストールする

JobCenter MG と SV は共通のパッケージです。以降「JobCenter MG/SV」と表記し、インストール方法を解説します。



一台のマシンで MG と SV の両方の役割を果たす場合でも、インストールは一回だけ行ってください。ただしコードワードの登録は JobCenter MG と JobCenter SV の 2 つ分が必要です。

- 2.4.1 HP-UX版
- 2.4.2 Solaris版
- 2.4.3 Linux版
- 2.4.4 AIX版
- 2.4.5 Windows版 (通常インストール)
- 2.4.6 Windows版 (サイレントインストール)

2.4.1 HP-UX版

HP-UX 版の JobCenter MG/SV のインストール手順を示します。

- ① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットします。

JobCenter メディアは RockRidge 形式で作成されていますので、HP-UX で CD-ROM をマウントする際は、次のように mount コマンドでマウントします。

- root ユーザでログインし、ioscan コマンドでデバイス名の確認を行ってください。

```
root> /usr/sbin/ioscan -fnu -Cdisk
```

- JobCenter メディア(CD-ROM)をセットし、次のコマンドを実行します。

```
root> /usr/sbin/mount -F cdfs -o rr <device-name> <mount-point>
```

マウントポイント(<mount-point>)およびデバイス名(<device-name>)はシステムにあわせて変更してください。

- ② 次のコマンドを実行してインストールします。

```
root> /usr/sbin/swinstall -s <HP_PRODUCT_PATH> NECJCpkg
```

備考 <HP_PRODUCT_PATH>はプロダクトのファイルパスです。実際の入力値は、JobCenter メディアのリリースメモ (RELMemo) を参照してください。

- ③ コマンド実行後エラーがなければ、インストーラは次のメッセージを表示します。インストールは正常に終了しています。

```
* Execution succeeded.
```

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照してインストールに失敗した理由を取り除いてください。

インストーラのエラーについては HP-UX の製品マニュアル等を参照してください。

- ④ インストール正常終了後、「3.実行環境のセットアップ(UNIX版)」へ進んでください。

2.4.2 Solaris版

Solaris 版の JobCenter MG/SV のインストール手順を示します。

- ① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットしてマウントします。マウント方法は Solaris の製品マニュアル等を参照してください。

- ② 次のコマンドを実行してインストールを行います。

```
root> /bin/pkgadd -d <SUN_PRODUCT_PATH>
```

備考 <SUN_PRODUCT_PATH>は、プロダクトのファイルパスです。実際の入力値は、JobCenter メディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

- ③ コマンド実行後、システムは JobCenter がインストール可能であることを次のように表示し、入力待ちの状態となります。

```
The following packages are available:

  1  NECJCpkg      JobCenter MG/SV package for Solaris
                        (Solaris(Sparc)) XXXX

Select package(s) you wish to process (or 'all' to process
all packages). (default: all) [?,??,q]:
```

備考 XXXX には JobCenter のバージョンが表示されます。

- ④ パッケージのインストールを行う場合には、「1」を選択し、リターンキーを押します。以降はインストーラの指示に従ってインストールを行います。

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照し、インストールに失敗した理由を取り除いてください。

インストーラのエラーに関しては Solaris の製品マニュアル等を参照してください。

- ⑤ インストール正常終了後、「3.実行環境のセットアップ(UNIX版)」へ進んでください。

2.4.3 Linux版

Linux 版の JobCenter MG/SV のインストール手順を示します。JobCenter 12.7 から RedHat 版のパッケージと Miracle 版のパッケージが共通化されました。Miracle Linux の場合は直接<3>の手順に進んでください。

<1> 「互換アーキテクチャのサポート」パッケージのインストール(RHEL4 とそれ以前のEM64T システムのみ)

JobCenter は 32 ビットアプリケーションであるため、EM64T システム上で JobCenter を動作させる場合は、RedHat OS にあらかじめ「互換アーキテクチャのサポート」パッケージを追加インストールしておく必要があります。

OS インストール時に「カスタム」を選択して「互換アーキテクチャのサポート」(の、すべてのパッケージ)を事前にインストールしていることを確認してください。

<2> IA-32 Execution Layerと 32-bit Compatibility Layerのインストール(RHEL4 とそれ以前の IA-64 システムのみ)

JobCenter は 32 ビットアプリケーションであるため、IA-64 システム(Itanium ベースのシステム)上で JobCenter を動作させる場合は、32 ビットアプリケーションのランタイム環境のセットアップが必要です。

このため、次の手順に従って IA-32 Execution Layer と「互換アーキテクチャのサポート」パッケージのインストールを行ってください。

• Red Hat の IA-32 Execution Layer のインストール

- ① X 端末で、当該システムに root 権限でログインします。
- ② Red Hat Enterprise Linux Extras の CD-ROM をセットし、mount します。
- ③ CD-ROM 上の autorun を実行します。
- ④ GUI 画面から、「進む」を選択し、「パッケージの追加と削除」画面で「Misc」を選択して、「進む」ボタンをクリックします。これにより、IA-32 Execution Layer(ia32el パッケージと ksh パッケージ)がインストールされます。
- ⑤ umount 後に CD-ROM を取り出します。

• Red Hat の「互換アーキテクチャのサポート」パッケージのインストール

- ① X 端末で、当該システムに root 権限でログインします。
- ② Red Hat Enterprise Linux 32-bit Compatibility Layer の CD-ROM をセットし、mount します。
- ③ CD-ROM 上の autorun を実行します。
- ④ GUI 画面から、「進む」を選択し、「パッケージの追加と削除」画面で、「互換アーキテクチャのサポート」(の、すべてのパッケージ)を選択し、「進む」ボタンをクリックします。これにより互換パッケージがインストールされます。
- ⑤ umount 後に CD-ROM を取り出します。

<3> JobCenterのインストール

- ① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットしてマウントします。マウント方法は Linux の製品マニュアル等を参照してください。
- ② 次のコマンドを実行してインストールを行います。

- ◆ 32 ビットおよび EM64T の場合

```
root> /bin/rpm -i <LINUX_PRODUCT_PATH>
```

- ◆ IA64 の場合

```
root> /bin/rpm -i --define "_autorelocate_path %{nil}"  
<LINUX_PRODUCT_PATH>
```

備考 <LINUX_PRODUCT_PATH>は、プロダクトのファイルパスです。実際の入力値は、JobCenter メディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

コマンド実行後、エラーメッセージが表示されなければインストールは完了です。
エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照してインストールに失敗した理由を取り除いてください。

インストーラのエラーに関しては Linux の製品マニュアル等を参照してください。

- ③ インストール正常終了後、「3.実行環境のセットアップ(UNIX版)」へ進んでください。

2.4.4 AIX版

AIX 版の JobCenter MG/SV のインストール手順を示します。



AIX 環境では同一製品のインストール済みパッケージの確認が自動では行われなため、上書きインストールされる可能性があります。必ず事前に、他の JobCenter MG/SV がインストールされていないことを確認してください。

- ① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットしてマウントします。マウント方法は AIX の製品マニュアル等を参照してください。
- ② 次のコマンドで、メディア内の AIX 版パッケージを適当なディレクトリに展開します。

```
root> cd <パッケージを展開するディレクトリ>
root> /usr/bin/tar xvf <AIX_PRODUCT_PATH>
```

備考 <AIX_PRODUCT_PATH>は、プロダクトのファイルパスです。実際の入力値は、JobCenter メディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

- ③ 2つのファイルが展開されます。

```
.toc
NECJCpkg.XXXX.bff
```

備考 上記の XXXX は JobCenter のバージョン表記に読み替えてください。

- ④ ③で解凍されたディレクトリ上で、次のコマンドを実行してインストールします。

```
root> /usr/sbin/installp -a -d. NECJCpkg
```

- ⑤ コマンド実行後エラーがなければ、インストーラは次のようなメッセージを表示します。

```
NECJCpkg.base XXXX USR APPLY SUCCESS
```

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照し、インストールに失敗した理由を取り除いてください。

インストーラのエラーに関しては AIX の製品マニュアル等を参照してください。

- ⑥ インストール正常終了後、「3.実行環境のセットアップ(UNIX版)」へ進んでください。

2.4.5 Windows版 (通常インストール)

Windows 版の JobCenter MG の通常インストール手順を示します。

JobCenter MG と JobCenter SV は同一のパッケージになっています。また、インストール手順も同じです。JobCenter SV のインストールを行う場合も、JobCenter MG のインストール手順に従ってください。Windows 版の場合はインストールとセットアップは一連の流れで行われます。

インストールを始める前に、次に挙げる注意事項を確認してください。

◆ 一般的な注意事項

- ◆ インストールを円滑に行うためにインストール前に、動作中のすべてのアプリケーションを終了してください。
- ◆ インストール先のマシンの Windows に、ローカルの Administrators グループに所属するユーザでログインしてください。
- ◆ ドメイン環境でセットアップする場合も、ローカルの Administrators グループに所属するユーザで Windows にログインしてから作業を行ってください。
- ◆ JobCenter 管理者をドメインユーザとする場合は、ローカルの Administrators グループに所属するそのドメインユーザで Windows にログインしてから作業を行ってください。
その場合、同じアカウント名綴りのローカルユーザを JobCenter グループに所属させることはできません。
- ◆ ドメインコントローラ(PDC/BDC)に JobCenter をインストールする場合は、セットアップの「ユーザタイプ」で「ローカル」「ドメイン」は選択できません。(ドメイン固定)

備考 %InstallDirectory%は JobCenter 本体のインストールディレクトリを表します。(既定値は C:¥JobCenter¥SV)

◆ 環境変数に関する注意事項

環境変数 NQS_SITE が設定されていると、正常にセットアップが実行できません。

事前に(例えばシステム環境変数などで)NQS_SITE の設定の有無を確認して、設定されていた場合は削除してからインストールしてください。

◆ 権限に関する注意事項

JobCenter が正常に動作するためには、JobCenter 管理者ユーザやその他の JobCenter 利用者ユーザに対して必要な権限が与えられている必要があります。これらの権限は[管理ツール]→[ローカルセキュリティポリシー]から設定することができます(ドメイン環境の場合は、ドメインコントローラの[ドメインセキュリティポリシー] および[ドメインコントローラセキュリティポリシー]で設定されます)。

通常は特に問題なく付与されていますが、対象システムのセキュリティポリシーによっては付与されていないこともあります。以下に必要な権限を記載しますので、これらの権限が JobCenter 利用者ユーザに付与されるようにしてください。

- (1) JobCenter 利用者ユーザに必要な権限(通常、OS 側でデフォルトで付与)

権 限	意 味
SeBatchLogonRight	バッチ ジョブとしてログオン
SeInteractiveLogonRight	ローカル ログオン

- (2) (1)に加えて JobCenter 管理者に必要な権限(OS 側でデフォルトで付与)

権 限	意 味
SeBackupPrivilege	ファイルとディレクトリのバックアップ
SeChangeNotifyPrivilege	走査チェックのバイパス
SeCreateGlobalPrivilege	グローバル オブジェクトの作成
SeDebugPrivilege	プログラムのデバッグ
SeIncreaseQuotaPrivilege	プロセスのメモリ クォータの増加
SeNetworkLogonRight	ネットワーク経由でコンピュータへアクセス
SeRestorePrivilege	ファイルとディレクトリの復元
SeSecurityPrivilege	監査とセキュリティ ログの管理
SeSystemEnvironmentPrivilege	ファームウェア環境値の修
SeTakeOwnershipPrivilege	ファイルとその他のオブジェクトの所有権の取得

備考 上記のうち SeCreateGlobalPrivilege については設定確認コマンド(jc_check、jc_getinfo)のチェック対象になっていませんが、JobCenter 管理者に必要な権限ですので、必ず付与されるようにしてください。

- (3) (1)(2)に加えて JobCenter 管理者に必要な権限(JobCenter セットアップ時に自動的に付与)

権 限	意 味
SeAssignPrimaryTokenPrivilege	プロセス レベル トークンの置き換え
SeServiceLogonRight	サービスとしてログオン
SeTcbPrivilege	オペレーティング システムの一部として機能

- (4) Administrators グループに付与されることが望ましい権限(OS 側でデフォルトで付与)

権 限	意 味
SeCreatePagefilePrivilege	ページ ファイルの作成
SeIncreaseBasePriorityPrivilege	スケジューリング優先順位の繰り上げ
SeLoadDriverPrivilege	デバイス ドライバのロードとアンロード
SeProfileSingleProcessPrivilege	単一プロセスのプロファイル
SeRemoteShutdownPrivilege	リモート コンピュータからの強制シャットダウン
SeShutdownPrivilege	システムのシャットダウン
SeSystemProfilePrivilege	システム パフォーマンスのプロファイル
SeSystemtimePrivilege	システム時刻の変更

備考 これらの権限がなくても JobCenter 自身の動作に影響を与えることはありません。ただし、JobCenter のジョブから起動するコマンドが Administrators のデフォルト権限を必要とする場合に影響がありますので、付与されるよう推奨します。

その他、Windows 版に関する JobCenter ユーザとしての要件については「2.1.1 注意事項の事前確認」の「Windows の場合の注意事項」を参照してください。

◆ Windows XP Professional マシンに JobCenter をインストールする際の注意事項

次の(1)と(2)の条件を必ず同時に満たしてください。

- (1) Windows XP Professional へのログインユーザが“Administrators”グループに所属していること。
- (2) 次の(a)~(c)のどれか 1 つが設定されていること。

- (a) 対象の Windows XP Professional マシンが「ドメイン環境」である。
- (b) Windows XP Professional へのログインユーザに次の設定がされている。
ポリシー「ネットワークアクセス：ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル」のセキュリティの設定が「クラシック：ローカルユーザをローカルユーザとして認証する」である。

備考 [スタート] – [ファイル名を指定して実行] を選択し、[secpol.msc] を実行します。[ローカル セキュリティ設定] ダイアログが表示されますので、右ペインのツリーより、[セキュリティの設定] – [ローカル ポリシー] – [セキュリティ オプション] のツリーアイコンを選択してポリシーを表示します。

- (c) 「guest」アカウントにポリシー「ネットワーク経由でコンピュータへアクセスを拒否する」の権限が付与されていない。

備考 [スタート] – [ファイル名を指定して実行] を選択し、[secpol.msc] を実行します。[ローカル セキュリティ設定] ダイアログが表示されますので、右ペインのツリーより、[セキュリティの設定] – [ローカル ポリシー] – [ユーザ権利の割り当て] のツリーアイコンを選択してポリシーを表示します。

◆ JobCenter(SV/NT)R4.1 以前のバージョンをインストールしている場合の注意事項

JobCenter(SV/NT)R4.1 以前のバージョンをインストールしている場合は、あらかじめアンインストールする必要があります。

JobCenter(SV/NT)R4.1 以前のバージョンのアンインストールは、インストールしたときの CD-ROM をマシンの CD-ROM 装置にセットし、Windows の [スタート] – [ファイル名を指定して実行] を選択します。次のファイル名を指定して、[OK] ボタンを選択します。

- Q:¥PRODUCT¥WIN¥JB_SV¥DISK1¥SVUNINST.EXE

備考 ここでは、CD-ROM ドライブを Q: ドライブとして説明します。CD-ROM ドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

◆ MSCS クラスタ環境の場合の注意事項

MSCS クラスタ環境で前のバージョンをアンインストールして新しいバージョンをインストールする際は、特別な手順で行う必要があります。詳細については、マニュアル「クラスタ機能利用の手引き」を参照してください。

◆ サイレントインストール用設定ファイル作成時の注意事項

手順⑫で作成するサイレントインストール用設定ファイルを他のマシンで使用したい場合は、

- ◆ 手順⑧の JobCenter が使用する IP アドレス指定で、必ず[自動設定]を選択してください。
- ◆ マシン ID の重複を防ぐため、設定ファイルを保存する度にいったん手順⑪に戻ってマシン ID を変更した上で、ファイル名を変えて保存してください。
- ◆ インストールマシンごとに JobCenter 管理者ユーザやパスワード、JobCenter グループを変えて保存することはできません。(ローカルユーザで各マシンで同一アカウント名・パスワード)

ドのユーザを指定するか、ドメインアカウントを JobCenter 管理者としてください)

通常インストールの手順は以下のとおりです。

- ① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットし、Windows の [スタート] — [ファイル名を指定して実行] を選択します。次のいずれかのファイル名を指定して、[OK] ボタンを選択します。

備考 CD-ROM ドライブを Q: ドライブではなく他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥x86¥jcsetup.exe

Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥x64¥jcsetup.exe ^{注1}

Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥ipf¥jcsetup.exe ^{注2}

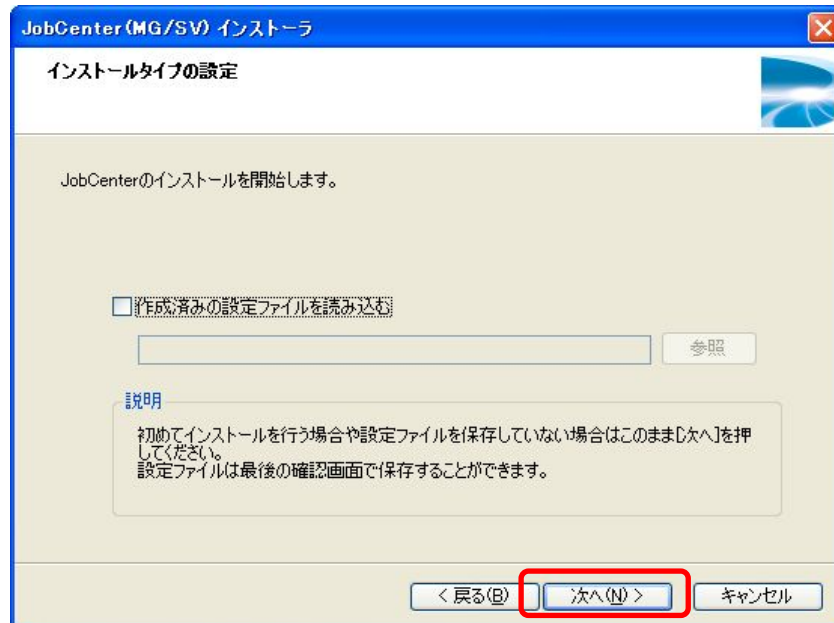
注 1. EM64T/AMD64 用の 64 ビットネイティブバイナリ

注 2. IA64(IPF)用の 64 ビットネイティブバイナリ

- ② セットアップ開始画面が表示されますので、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。



- ③ 前回のインストール時に設定した内容を保存した設定ファイルの読み込みを行うことができます。設定ファイルを読み込む場合、[作成済みの設定ファイルを読み込む]にチェックを入れた後、[参照]ボタンを押して画面の指示に従って設定ファイルを指定してください。設定ファイルを読み込まない場合は[作成済みの設定ファイルを読み込む]にチェックを入れずに [次へ(N)>] ボタンをクリックします。



備考 設定ファイルは「⑫確認画面」で作成することができます。

- ④ インストールする言語(日本語または英語)を選択し、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。



- ⑤ インストール先のフォルダを選択し、[次へ>(N)] ボタンをクリックします。

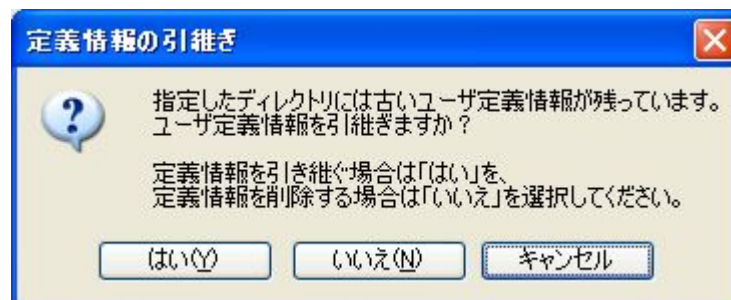
インストール先のフォルダの初期値は、「C:\JobCenter\SV」となっています。

インストール先のフォルダを変更する場合には、[参照] ボタンをクリックし、画面の指示に従ってインストール先のフォルダを選択し、[OK] ボタンをクリックします。



-  インストールフォルダ名にタブおよび「%」、「(」、「)」、「\」、「;」、「&」、「=」、「,」などの特殊文字は使用できません。また、インストールパスに日本語を含めることはできません。

[次へ>(N)]ボタンをクリックした時に、古いバージョンのユーザ定義情報を含んでいるディレクトリを指定するか、再インストール時に再インストール前と同じディレクトリを指定した場合に下記の画面が表示されることがあります。定義情報を引き継ぐ場合は[はい]ボタンを押してください。定義情報を削除してインストールを行う場合は[いいえ]ボタンを押してください。別のディレクトリに変更する場合は[キャンセル]ボタンを押して、インストール先を変更してください。



- ⑥ プログラムフォルダを入力し、[次へ>(N)] ボタンをクリックします。
ショートカット作成先のフォルダの初期値は、「JobCenter¥SV」となっています。

 プログラムフォルダ名に日本語を使用することはできません。

- ⑦ JobCenter で使用する管理者ユーザの登録を行います。

管理者アカウント、管理者パスワード(2 箇所)、利用者グループを入力し、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。存在しないアカウントを入力した場合は、新規アカウントが作成されます。また、存在しないグループ名を入力した場合は、新規にグループが作成されます。

 ユーザ名の最大長は 15 バイトです。

 新規ユーザを JobCenter 管理者にする場合は、インストール実行者に対象のマシン上(ローカルまたはドメイン)にユーザを追加する権限が必要です。インストール実行者にユーザを

追加する権限がない場合、インストール実行中の新規ユーザ追加処理が行えずインストールに失敗します。



JobCenter グループ名に日本語を使用することはできません。

備考 ドメイン環境にインストールする場合は、JobCenter 管理者ユーザをローカルユーザで登録するか、ドメインのユーザで登録するかを選択できます。

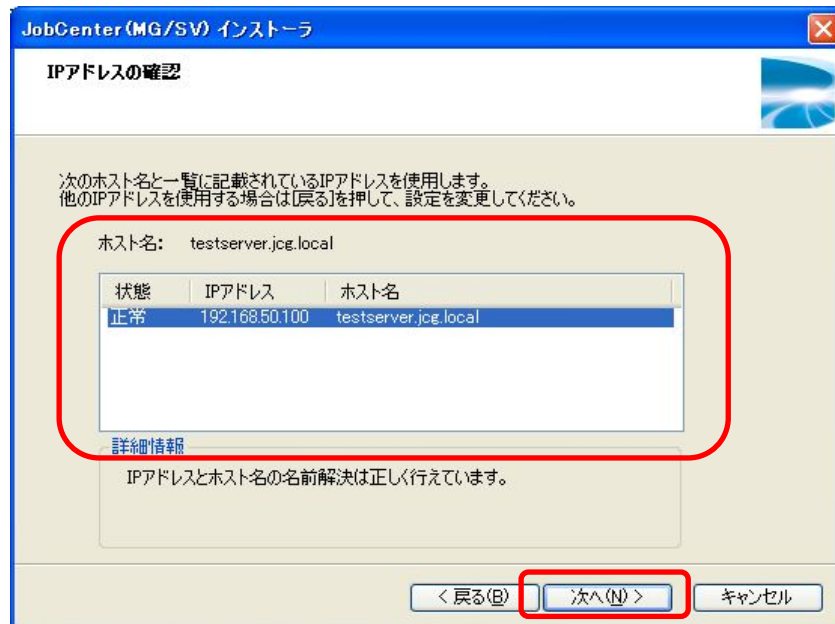
JobCenter 管理者をローカルユーザとした場合、JobCenter で利用できるユーザはローカルユーザのみになります。JobCenter 管理者をドメインユーザとした場合、ローカルユーザ・ドメインユーザともに利用できます。

- ⑧ JobCenter が使用する IP アドレスを指定して、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。
使用する IP を自動的に決定する場合は[自動設定]を選択してください。
マシンが複数の IP アドレスを持っており、特定の IP アドレスで待ち受けを行う場合は[手動設定]を選択し、待ち受ける IP アドレスを入力してください。IP アドレスの指定は5つまで可能です。

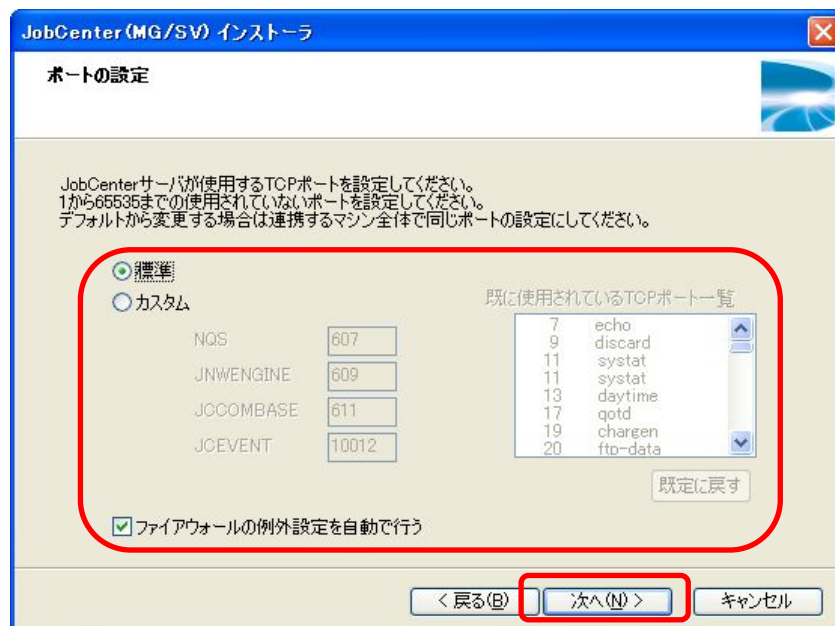


複数の IP アドレスを持つマシンで、[自動設定]を選択した場合は OS により決定される最も優先度の高い IP アドレスが使用されます。

- ⑨ 「⑧IPアドレスの設定」で設定したIPアドレスの名前解決の結果が表示されます。使用されるIPアドレスとホスト名に問題がなければ、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。



- ⑩ JobCenter が使用する TCP ポートと Windows のファイアウォールの例外設定を指定して、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。
JobCenterMG/SV が使用する TCP/IP のポートをデフォルト値以外の値を使用する場合は[カスタム] にチェックを入れて、各サービスが使用するポート番号を指定してください。TCP/IP のデフォルト値については備考を参照してください。



備考 TCP ポートのデフォルト値は次のとおりです。設定画面の「既に使用されている TCP ポートの一覧」の欄を参照し、重複していないか確認してください。

NQS : 607
JNWENGINE : 609
JCCOMBASE : 611
JNWEVENT : 10012



ファイアウォールの例外設定はインストール時にアクティブなプロパティに対して設定されます。インストール後にアクティブなプロパティが変更された場合(例えばパブリックからドメインに変更された場合)には、手動で変更後のプロパティに対してファイアウォールの例外設定を行ってください。

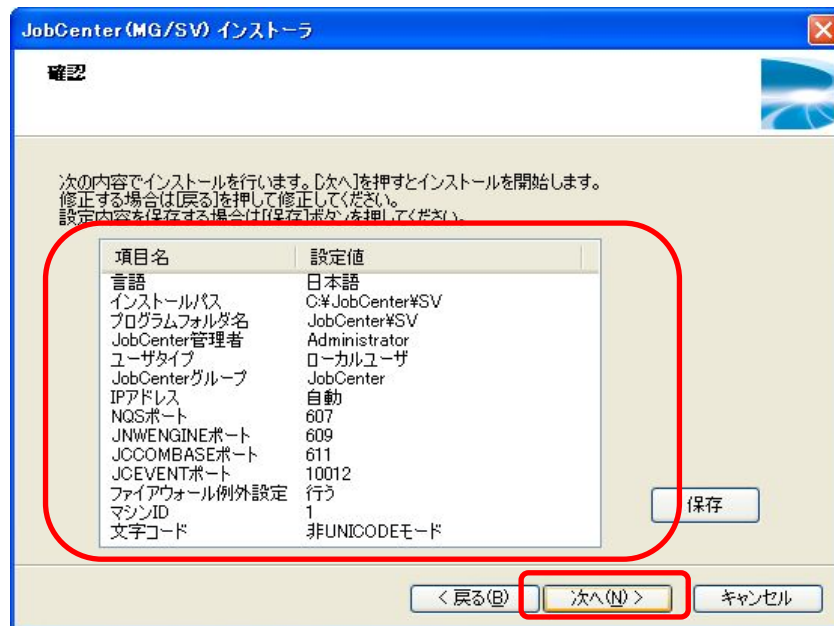
- ⑪ NQS のマシン ID(マシン ID)の入力と文字コードの選択をします。マシン ID は、JobCenter が相互にローカルサイト・クラスタサイトをそれぞれ一意に識別するための ID です。文字コードは UNICODE を利用しない場合には非 UNICODE モードを、UNICODE を利用する場合には UNICODE モードを選択します。



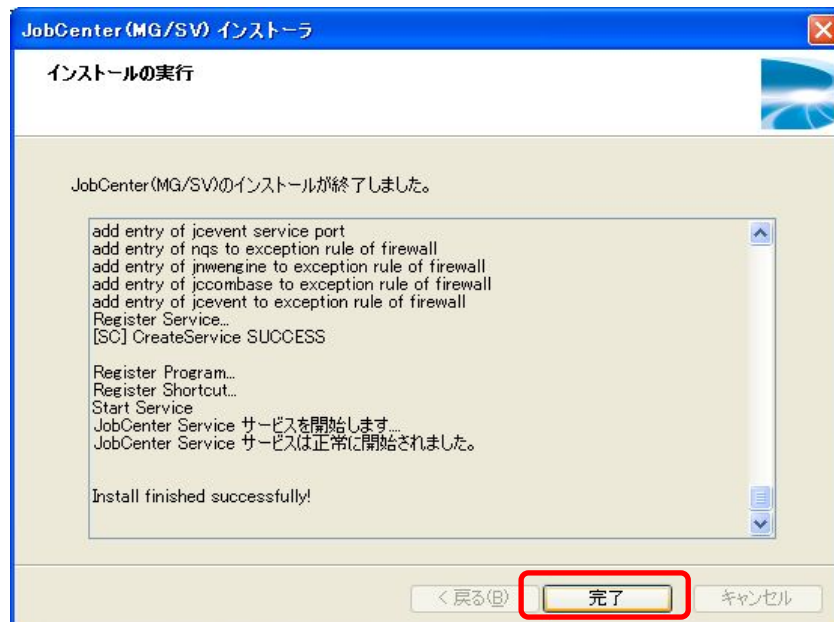
JobCenter がインストールされているマシン間で、マシン ID が重複しないようにしてください。デフォルトで「1」が設定されています。文字コードの設定は一度設定すると後から変更はできません。

UNICODEモード使用時の注意事項については「2.1.1 注意事項の事前確認」を参照してください。

- ⑫ 設定した内容を確認し、問題がなければ[次へ(N)>]ボタンを押すことでインストールが開始されます。
- 設定内容を保存する場合は[保存]ボタンを押すことで設定内容を保存することができます。保存したファイルはサイレントインストールに使用することができます。



- ⑬ JobCenter(MG/SV)のインストールが完了すると[完了]ボタンが押せるようになりますので、[完了] ボタンをクリックし、セットアップを完了します。



備考 Microsoft visual C++ 2008 SP1 再頒布可能パッケージが入っていない場合は自動的にインストールが行われます。この処理に数分かかることがありますますが異常ではありません。

この追加インストール処理を行っている際に、【エラー:3010】が表示され、

JobCenter(MG/SV)のインストールに失敗する場合があります。これは頒布パッケージのインストールにシステムの再起動が必要なためです。システムの再起動後に改めて再度JobCenter(MG/SV)のインストールを行ってください。

また、ドメイン環境にインストールした場合は、ユーザ追加処理に数分かかることがありますますが異常ではありません。



インストール完了時に以下の警告メッセージが表示されることがあります。警告の内容に従って次の事をご確認ください。

◆ 「ファイアウォールの例外設定に失敗しました」

Windowsのファイアウォールが有効になっているか確認してください。ファイアウォールの機能を利用する場合は、ファイアウォールの機能を有効にした後で、JobCenterで使用する(「⑩TCPポートの設定」で設定した)ポート番号の例外登録を行ってください。

◆ 「Cluster 用 DLL の配置に失敗しました」

クラスタソフト MSCS または MSFC 用の JobCenter の DLL の置換に失敗しています。MSCS または MSFC ですでに JobCenter を利用していた場合はマニュアル「クラスタ機能利用の手引き」のバージョンアップ手順を参照してください。

MSCS または MSFC を新規に利用する場合は次のファイルを「C:\¥Windows¥cluster」にコピーしてください。MSCS または MSFC を使用しない場合は本設定の必要はありません。

C:\¥%InstallDirectory%\¥lib¥JobCenterCluster.dll

C:\¥%InstallDirectory%\¥lib¥JobCenterClusterEx.dll

◆ 「ESMPRO/ServerAgent との連携設定に失敗しました」

ESMPRO/ServerAgent との連携を行う場合、正しく ServerAgent がインストールされているかを確認してください。正しくインストールされていることを確認後、次のコマンドを実行してください。

C:\¥ %InstallDirectory%\¥setup¥amirtreg add

ESMPRO/ServerAgent を利用しない場合は設定の必要はありません。

- ⑭ JobCenter(MG/SV) のインストールが完了後、情報採取コマンド「C:\¥%InstallDirectory%\¥bin¥check¥jc_getinfo」を実行して、採取されたデータの内「right.Info」ファイルをテキストエディタで開き、JobCenter 管理者に必要な権限が割り当てられている事([NG]の項目がないこと)を確認してください。[NG]の項目がある場合は、NG になっている権限をJobCenter 管理者に付与してください。これらの権限は通常、[管理ツール]→[ローカルセキュリティポリシー]から設定することができます(ドメイン環境の場合は、ドメインコントローラの[ドメインセキュリティポリシー]および[ドメインコントローラセキュリティポリシー]で設定されます)。

備考 jc_getinfo の詳細についてはマニュアル「JobCenter コマンドリファレンス」を参照してください。

2.4.6 Windows版 (サイレントインストール)

Windows 版の JobCenter MG のサイレントインストール手順を示します。

インストールについての注意事項については「2.4.5 Windows 版(通常インストール)」と同様ですので、そちらを参照してください。



Windows Server 2008 環境では、コマンドプロンプトを開く際に右クリックメニューの「管理者として実行」を選択して実行してください。

① サイレントインストール用の設定ファイルを作成します。

サイレントインストール用の設定ファイルを作成するには、適当なマシンで「2.4.5 Windows版 (通常インストール)」の手順に従い、サイレントインストールを行うマシンの設定内容を入力します。その後、手順⑫の画面で[保存]ボタンを押すと、サイレントインストール用の設定ファイルが作成されます。



サイレントインストール用設定ファイル作成時の注意事項

- ◆ サイレントインストール用に作成した設定ファイルは、エディタ等による内容変更を行わないでください。
- ◆ 作成したサイレントインストール用設定ファイルを他のマシンで使用したい場合は、
 - 「2.4.5 Windows 版 (通常インストール)」の手順⑧の JobCenter が使用する IP アドレス指定で、必ず[自動設定]を選択してください。
 - マシン ID の重複を防ぐため、設定ファイルを保存する度にいったん手順⑪に戻ってマシン ID を変更した上で、ファイル名を変えて保存してください。
 - インストールマシンごとに JobCenter 管理者ユーザやパスワード、JobCenter グループを変えて保存することはできません。(ローカルユーザで各マシンで同一アカウント名・パスワードのユーザを指定するか、ドメインアカウントを JobCenter 管理者としてください)
- ◆ サイレントインストールを行うマシンの JobCenter 管理者のパスワードと、設定ファイル作成時に指定した JobCenter 管理者のパスワードは一致させる必要があります。そのため、設定ファイルを作成した後に設定ファイルを作成したマシン、またはサイレントインストールを行うマシンの JobCenter 管理者の OS のパスワードを変更した場合は、サイレントインストールを行う前に設定ファイルを再度作成してください。

② JobCenter メディア(CD-ROM)をセットし、コマンドプロンプトを実行します。コマンドプロンプトは Windows の [スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] から実行できます。

③ 次のコマンドでカレントディレクトリを変更してください。

- ◆ IA32 環境の場合

```
C:¥> Q:
Q:¥> cd Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥x86¥script
```

- ◆ EM64T/AMD64 環境の場合

```
C:¥> Q:
Q:¥> cd Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥x64¥script
```

◆ IA64(IPF)環境の場合

```
C:¥> Q:
Q:¥> cd Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥ipf¥script
```

備考 CD-ROM ドライブを Q: ドライブとして説明します。CD-ROM ドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

- ④ 次のコマンドを実行するとインストールが開始されます。

```
Q:¥> install.bat <jcsetup.conf>
```

インストールが正しく完了すると「Install finished successfully!」と表示されます。

備考 <jcsetup.conf>には予め作成済みの設定ファイルのフルパスを入力してください。

- ⑤ インストール完了後は「2.4.5 Windows版(通常インストール)⑭権限の確認」と同様にJobCenter管理者に必要な権限が割り当てられているかを確認し、割り当てられていない場合は割り当ててください。

2.5 JobCenter CL/Winをインストールする

JobCenter CL/Win(ビューワ)は、JobCenter MG(マネージャ)および JobCenter SV(サーバ)に接続する Windows GUI です。

インストールとセットアップは一連の流れで行われます。なお CL/Win は異なるバージョン(R12.7 と R12.8 等)をインストール先フォルダを分けることで、混在してインストールすることが可能です。



JobCenter CL/Win のインストールを行う前に現在動作中のすべてのアプリケーションを終了してください。ランタイムライブラリのインストールを円滑に行うために必要です。

2.5.1 通常インストール

2.5.2 サイレントインストール

2.5.1 通常インストール



注意事項

- ◆ インストールを円滑に行うためにインストール前に、動作中のすべてのアプリケーションを終了してください。
- ◆ インストール先のマシンに、ローカルの Administrators グループに所属するユーザでログインしてください。ドメイン環境でセットアップする場合も、ローカルの Administrators グループに所属するユーザでログインしてから作業を行ってください。

① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットします。

Windows の [スタート] – [ファイル名を指定して実行] を選択します。次のファイル名を指定して、[OK] ボタンを選択します。

- Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥CLWIN¥clsetup.exe

備考 CD-ROM ドライブを Q: ドライブとして説明します。CD-ROM ドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

② セットアップ開始画面が表示されますので、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。



- ③ JobCenter CL/Win で使用する言語(日本語または英語)を選択し、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。

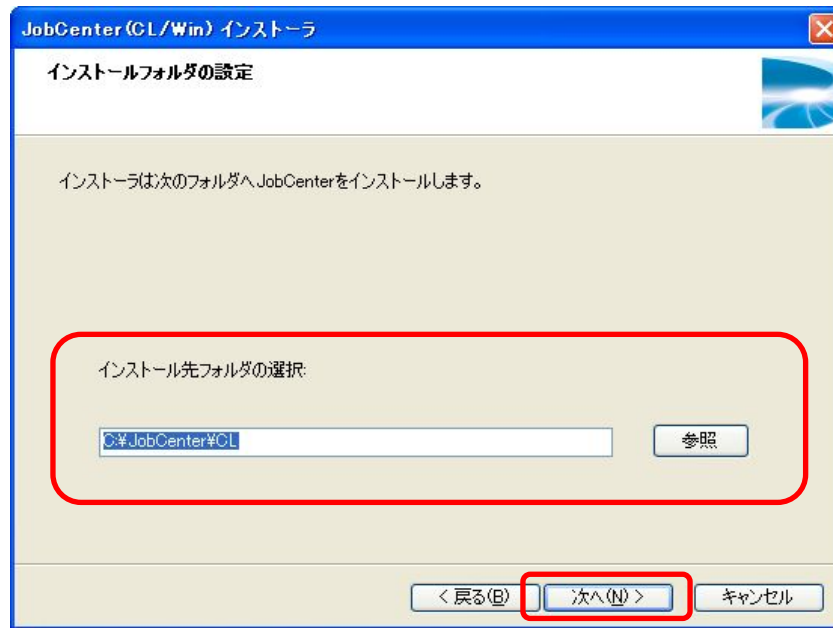


- ④ JobCenter CL/Win をインストールするフォルダを選択します。

インストール先のフォルダの初期値は、「C:\JobCenter\CL」となっています。インストール先のフォルダを変更する場合には、[参照(R)...] ボタンをクリックし、画面の指示に従ってインストール先のフォルダを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

異なるバージョンの CL/Win を混在させる等、新規にフォルダを作成したい場合はパスを直接入力してください。

インストール先を決定後、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。



 インストールフォルダ名にタブおよび「%」、「(」、「)」、「\」、「;」、「&」、「=」、「,」などの特殊文字は使用できません。

 Windows Vista または Windows Server 2008 にインストールする場合は「C:\Program Files\」配下にインストールすることはできません。

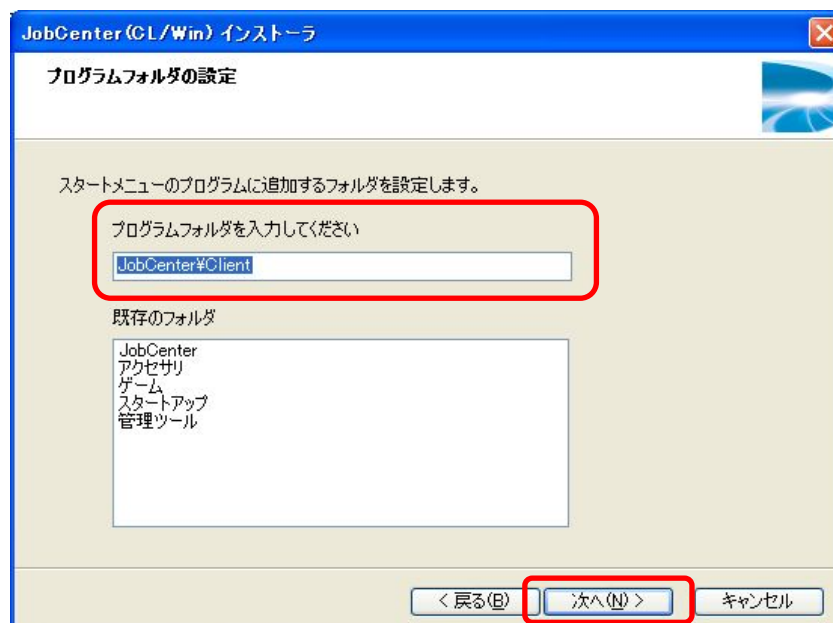
- ⑤ JobCenter CL/Win のショートカットを格納するフォルダを選択します。

ショートカット作成先のフォルダの初期値は、「JobCenter\Client」となっています。

作成先のフォルダを変更するには「プログラムフォルダ」に任意のフォルダ名を入力します。

異なるバージョンの CL/Win を混在させる場合は、必ずショートカット格納フォルダを分けるようにしてください。

フォルダの決定後、「次へ(N) >」ボタンをクリックします。



- ⑥ JobCenter CL/Win を利用する際に、次のいずれかのモードで利用するかを選択し、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。



表 2-5 登録モードと操作可能範囲

登録モード	ジョブネットワークの作成、削除、変更	ジョブネットワークやジョブの制御
通常モード	○	○
参照モード	×	○
ref モード	×	×

備考 ○：操作可能、×：操作不可能

- ⑦ JobCenter CL/Win の起動直後によく利用するウィンドウを開くショートカットを選択し、[次へ(N) >] ボタンをクリックします。

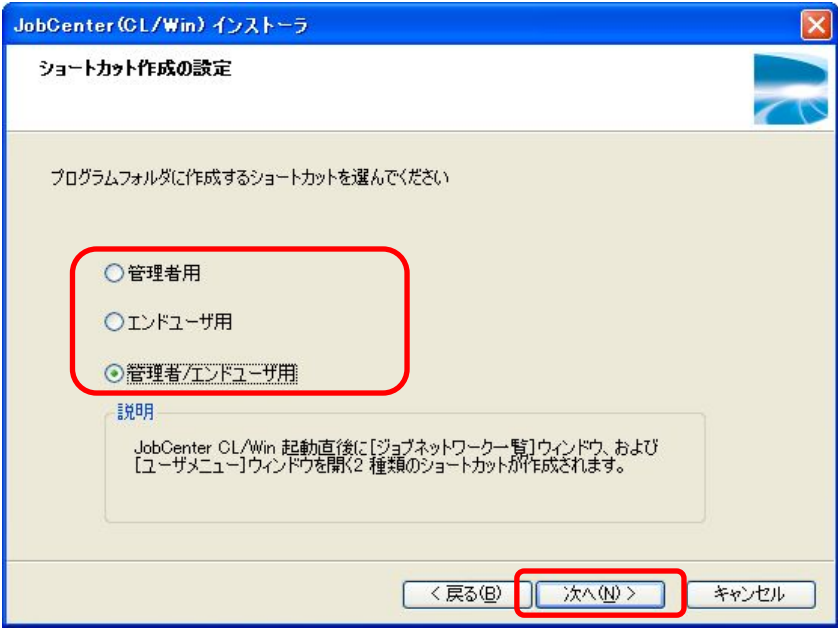


表 2-6 利用するウィンドウと作成されるショートカット

利用するウィンドウ	作成されるショートカット
管理者用	JobCenter CL/Win 起動直後に [ジョブネットワーク一覧] ウィンドウが開くようなショートカットが作成されます。
エンドユーザ用	JobCenter CL/Win 起動直後に [ユーザメニュー] ウィンドウが開くようなショートカットが作成されます。
管理者/エンドユーザ用	JobCenter CL/Win 起動直後に [ジョブネットワーク一覧] ウィンドウ、および [ユーザメニュー] ウィンドウを開く 2 種類のショートカットが作成されます。

- ⑧ JobCenter MG/SV と通信するためのポート(JCCOMBASE)を設定します。

サーバ側で使用するポートを変更していない場合は、[標準](611 番)を選択してください。

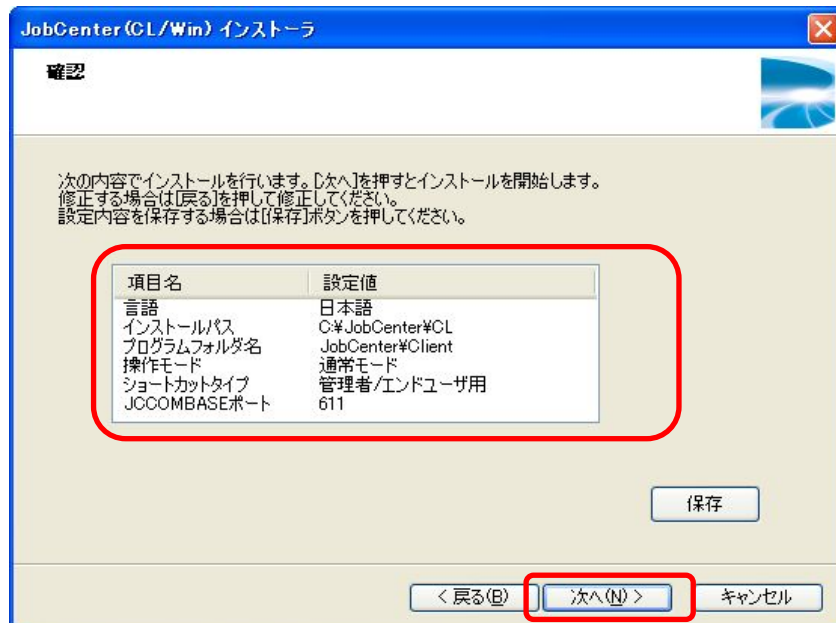
サーバ側でポートを変更している場合は、[カスタム]を選択し、ポートの値を入力してください。

設定が完了したら [次へ(N)>] ボタンをクリックします。

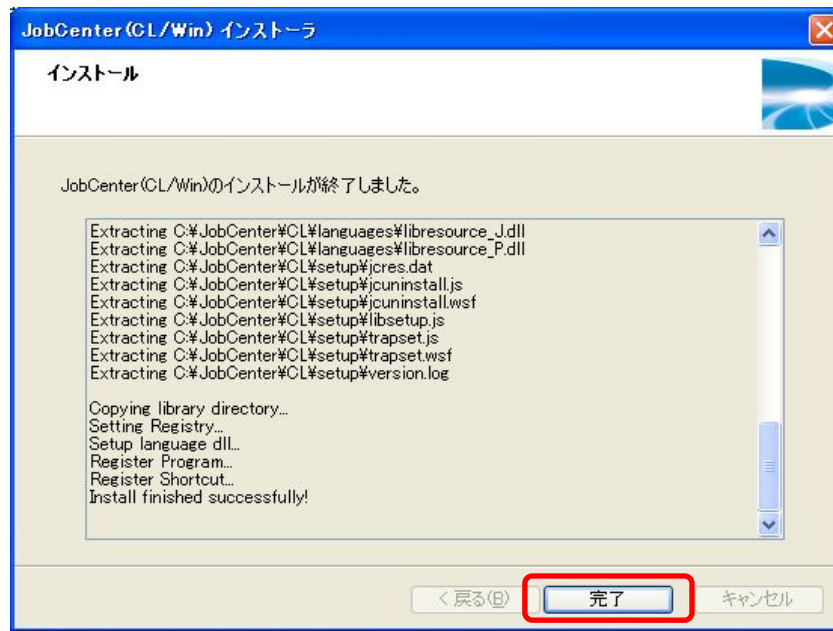


- ⑨ 設定した内容を確認し、問題がなければ[次へ(N)>]ボタンを押すことでインストールが開始されます。

設定内容を保存する場合は[保存]ボタンを押すことで設定内容を保存することができます。保存したファイルはサイレントインストールに使用することができます。



- ⑩ JobCenter(CL/Win)のインストールが完了すると[完了]ボタンが押せるようになりますので、
[完了] ボタンをクリックし、セットアップを完了します。



インストール完了時に以下の警告メッセージが表示されることがあります。警告の内容に従って次の事をご確認ください。

- ◆ 「jobcenter.def は自動でコピーされません。必要に応じて、マニュアルを参照して手動でコピーしてください。」

この警告は UXServerManager (Viewer) がインストールされているマシンに CL/Win をインストールした際に表示されます。UXServerManager(Viewer)を用いて監視を行う場合は、「環境構築ガイド」の「11.2.4 ビューアマシンの設定」を参照して設定を行ってください。

2.5.2 サイレントインストール

JobCenter CL/Winのサイレントインストール手順を示します。インストールについての注意事項については「2.5.1 通常インストール」と同様ですので、そちらを参照してください。



Windows Server 2008 環境では、コマンドプロンプトを開く際に右クリックメニューの「管理者として実行」を選択して実行してください。

- ① サイレントインストール用の設定ファイルを作成します。
サイレントインストール用の設定ファイルを作成するには、適当なマシンで「2.5.1 通常インストール ⑨設定内容の確認」の手順に従い、サイレントインストールを行うマシンの設定内容を入力します。
その後、手順⑫に画面で[保存]ボタンを押すと、サイレントインストール用の設定ファイルが作成されます。



サイレントインストール用設定ファイル作成時の注意事項

- ◆ サイレントインストール用に作成した設定ファイルは手動で変更を行わないでください。
- ② JobCenter メディア(CD-ROM)をセットし、コマンドプロンプトを実行します。コマンドプロンプトは Windows の [スタート] – [プログラム] – [アクセサリ] から実行できます。
 - ③ 次のコマンドでカレントディレクトリを変更してください。

```
C:¥> Q:  
Q:¥> cd Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥CLWIN¥script
```

備考 CD-ROM ドライブを Q: ドライブとして説明します。CD-ROM ドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

- ④ 次のコマンドを実行するとインストールが開始されます。

```
Q:¥> install.bat <clsetup.conf>
```

インストールが正しく完了すると「Install finished successfully!」と表示されます。

備考 <clsetup.conf>には予め作成済みの設定ファイルのフルパスを入力してください。



サイレントインストールの注意事項について

- ◆ サイレントインストール用に作成した設定ファイルは手動で変更を行わないでください。
複数のマシン用に設定ファイルを作成する場合は、インストール対象のマシンに対する設定を GUI 上から行い、設定ファイルの保存を行ってください。

3. 実行環境のセットアップ(UNIX版)

JobCenter の実行環境のセットアップ(UNIX 版)を行います。

なお、Windows 版の場合はインストール時にセットアップも一連の流れで行われます。

(1) JobCenterのセットアップ

<1> nssetup(セットアップ用のコマンド)を実行する

```
root> /opt/netshep/nssetup
```



HP-UX を高信頼性モードで運用していて、かつ以下の<4>で設定する JobCenter 管理者ユーザ(nsumsmgr)がまだ OS に追加されていない状態で上記の nssetup コマンドを実行すると、ユーザ作成に失敗して nssetup コマンドが正常に終了できなくなる場合があります。HP-UX を高信頼性モードで運用している環境では、事前に nsumsmgr ユーザを useradd コマンドで追加してから nssetup を実行してください。

ただし Linux の場合は次のようになります。

```
root> /usr/local/netshep/nssetup
```

もし、バージョンアップ等で以前の JobCenter のスプールディレクトリが存在する場合は次のメッセージが出力されます(存在しない場合は何も出力されません)。

```
[Warning] JobCenter spool directory(/usr/spool/nqs) is already exist.
Do you use the old spool directory? [y/n](default: n)
```

既存のディレクトリを使用する場合は y を選択します(12.6 までと同じ動作です)。n を選択した場合は spool ディレクトリを消去して、新規のセットアップを開始します。spool ディレクトリの内容に関しては、リリースメモの「3.2.3(1) スプールディレクトリ(/usr/spool/nqs)」をご確認ください。

<2> JobCenterのマシンIDを設定する

nssetup を実行すると、NQS ディレクトリが自動的に作成されて NQS マシン ID の入力待ちの状態となります。(マシン ID は 1 以上 2147483647 以下のシステム上で一意に決まる整数)

```
Setting NQS マシン ID.
INPUT: Machine-id of this machine (default:1)=
```

ここで、あらかじめ決めておいた NQS マシン ID(例えば 1234)を入力します。

```
INPUT: Machine-id of this machine (default:1)= 1234 ↵
```



JobCenter がインストールされているマシン間で、マシン ID(マシン ID)が重複しないようにしてください。デフォルトで「1」が設定されています。



この段階でセットアッププログラムが JobCenter が使用するポートのエントリを

/etc/services に追加します。607/tcp、611/tcp、10012/tcp のエントリが無い場合、次のようにポート番号を追加したことを表示します。

```
Add entry of nqs service port to /etc/services.
Add entry of jccombase service port to /etc/services.
Add entry of jcevent service port to /etc/services.
```

- ◆ JobCenter が使用するポートをすでに別のアプリケーションで利用している場合は、セットアップが終了した後で/etc/services を編集して、ポート番号を他の空いている番号に変更して JobCenter を再起動してください。

また、連携する他の全ての JobCenter サーバの/etc/services の記述も合わせて変更してください。

特に Linux の場合は jccombase サービスの 611/tcp が既存の npmp-gui サービスの番号と競合するため、npmp-gui サービスのエントリをコメントアウトするか、jccombase のサービス番号を変更して対処してください。

- ◆ jccombase サービスに割り当てる番号を変更する場合、CL/Win をインストールする Windows マシンにおいて、次のレジストリキーのポート番号を必要に応じて 611 から変更してください(R12.x はセットアップしている JobCenter のバージョンに読み替えてください)。

[HKEY_LOCAL_MACHINE] — [SOFTWARE] — [NEC] —

[JobCenter(CL/Win)] — [R12.x] — [ComBasePort] の値

詳細は「JobCenter 環境構築ガイド 2.1 JobCenter で使用する TCP ポート」を参照してください。

<3> JobCenterを使用する言語環境を選択する

OS がセットアップされている言語環境とは独立して JobCenter が動作する際の言語環境を選択することができます。このマシンで起動・設定する GUI およびジョブネットワークは、ここで選択した文字コード以外では使用できません。

```
Select language code for JobCenter.
0 - English
1 - EUC
2 - Shift-JIS (MS-kanji)
3 - Chinese (GB18030)
4 - JP.UTF-8
Which language code do you use in this system ? (0/[1]/2/3/4)
```

スクリプト内で環境変数 LANG の設定値を変更したり、スクリプト実行用シェルの LANG 初期値が異なっていた場合、文字化けが発生する可能性がありますので注意してください(デフォルトで選択されている文字コードは、環境変数 LANG の値によって異なります)。

```
Which language code do you use in this system ? (0/[1]/2/3/4) 1 ↵
```



同一運用環境で、異なる言語環境でセットアップした JobCenter MG/SV を混在して使用する場合、いくつか注意すべき事項があります。また、追加の設定が必要になる場合があります。「JobCenter 環境構築ガイド 9. 日本語環境での文字コード変換」を参

照してください。Windows 版 MG/SV と混在する場合は「JobCenter 環境構築ガイド 8. 異なる言語間における接続設定」も参照してください。



ここで選択した文字コードでセットアップした後にジョブネットワークやスケジュール等を作成した場合、(全てアルファベットと数字を用いて設定した場合を除き)他の言語環境の JobCenter への設定データの移行はできませんので、言語環境の選択には十分注意してください。



JP.UTF-8(UNICODE環境)を使用する場合、いくつかの注意事項がありますので「2.1.1 注意事項の事前確認」を参照の上で設定を行ってください。

<4> UMS環境を設定する

UMS 環境とは JobCenter システムを管理するための環境です。ここでは JobCenter 管理者である nsumsmgr アカウントを新たに自動的に作成するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます(ユーザ名 nsumsmgr は固定であり、変えられません)。ただし、すでに nsumsmgr アカウントが存在する場合は、このメッセージは表示されずスキップされます。

```
Start NQS daemon.
making UMS environment..
JobCenter needs new user "nsumsmgr".
Do you want to create user "nsumsmgr" automatically ? ([y]/n)
```

- 管理者ユーザを作成する場合

y を入力しリターンキーを押し、セットアップを続けます。

システムの状態が調べられ、次のように出力されます(ユーザ ID などはマシンごとに異なる場合があります)。

```
Create new user "nsumsmgr" as following:
(1)USER ID : 738 (nsumsmgr)
(2)GROUP ID : 1 (other)
(3)HOME DIRECTORY : /home/nsumsmgr
SHELL : /sbin/sh
COMMENT : JobCenter manager
OK? (y/1/2/3/q) :
```

上から順に、(1)ユーザID、(2)グループID、(3)ホームディレクトリ、シェル、コメントと並んでいます。このうち、変更できるのは、ユーザID、グループID、ホームディレクトリの3つです。

修正したい箇所の()内の数字を入力してリターンキーを押すことで、修正モードに入ります。次の「<5>管理者ユーザの設定を変更する」に進んでください。

現在の設定でよければ、yを入力してリターンキーを押して、「<6>パスワードを設定する」に進んでください。なんらかの理由で作業を中断する場合は、qを入力してリターンキーを押してください。作業を中断した場合は、次の「管理者ユーザの設定を自動で行わない場合」に準じて、後で必ずnsumsmgrアカウントを作成してパスワードを設定し、mkumseenvshによる環境設定を行って下さい。

- 管理者ユーザの設定を自動で行わない場合

n を入力しリターンキーを押します。

NIS 運用されている環境にインストールする場合や、ログインシェルを/sbin/sh 以外のものを指定したい等の理由により管理者ユーザの設定を自動で行わない場合には、こちらを選択してください。次のメッセージが表示されてインストール(セットアップ)は終了となります。

```
You must create new user nsumsmgr manually,
And execute "/usr/lib/nqs/gui/bin/mkumseenvsh" .
```



ここで管理者の設定を行わなかった場合には、インストール後に必ず nsumsmgr アカウントの作成とパスワード設定、および /usr/lib/nqs/gui/bin/mkumseenvsh の実行を行ってください。

<5> 管理者ユーザの設定を変更する

- ユーザ ID の変更

```
OK? (y/1/2/3/q) :1
```

ここに、1 を入力してリターンキーを押すと、次のようにユーザ ID をたずねるメッセージが表示されます。

```
Set USER ID: 500
```

設定したいユーザ ID を入れると、そのユーザ ID がすでに使用されていないかを調べます。すでに使用されていれば、次のメッセージが出力され、もう一度別のユーザ ID を入力するように求められます。

```
USER ID: 500 is already in use.
Set USER ID:
```

入力したユーザ ID に問題なければ、次の画面に戻ります(ここでは、ユーザ ID を 738 から 501 に変更しています)。

```
Create new user "nsumsmgr" as following:
(1)USER ID : 501 (nsumsmgr)
(2)GROUP ID : 1 (other)
(3)HOME DIRECTORY : /home/nsumsmgr
SHELL : /sbin/sh
COMMENT : JobCenter manager
OK? (y/1/2/3/q) :
```

- グループ ID の変更

```
OK? (y/1/2/3/q) :2
```

前の画面(ユーザ ID 変更の完了画面)で 2 を入力し、リターンキー押すことでグループ ID

の修正モードに入ります。最初に次のメッセージが表示されます。

```
Possible GROUP ID is following:
root : 0
other : 1
bin : 2
sys : 3
.
.
Set GROUP ID:
```

グループ ID は、存在しているグループ ID にのみ変更できるため、現在設定されているグループ ID のリストがまず表示され、最後にグループ ID の入力を求めるメッセージが出力されます。グループ ID のリストを見て、正しい ID を入力してください。

- ホームディレクトリの変更

```
OK? (y/1/2/3/q) :3
```

ユーザ ID 変更の完了画面で 3 を入力して、リターンキー押すことで、設定するディレクトリを次のように聞いてきます。

```
Set directory:
```

適切なディレクトリを入力してください。

すでに存在しているディレクトリを入力した場合、次のようなメッセージが表示されます。

```
Directory "/home/nsumsmgr" exists.
OK? (y/[n]) :y
```

ここで y を入力してリターンキーを押すと、そのディレクトリに変更することができます。



注意事項

- (3)ホームディレクトリに既存のディレクトリを指定した場合は、そのディレクトリ下の全てのファイルとディレクトリの所有者は、管理者ユーザのユーザ ID とグループ ID に変更されます。
- Linux 機や AIX 機では、ホームディレクトリを変更した場合、デフォルトのホームディレクトリも作成される場合があります。そのシステムのデフォルトのホームディレクトリを確認し、不要な nsumsmgr ディレクトリが存在する場合は、手動で削除してください。

<6> パスワードを設定する

```
OK? (y/[n]) :y
```

画面の(1), (2), (3)項の変更が完了し、y を入力してリターンキーを押すと、パスワードの設定

に移ります。次のように表示されたら、新しいパスワードを入力してください。

```
Set password of "nsumsmgr"  
New password: xxxxxxx
```

入力が終了すると、次のように再度パスワードの確認を求めるメッセージが表示されますので、同じパスワードを入力してください。

```
Re-enter new password: xxxxxxx
```



JobCenter システムの動作には JobCenter 管理者アカウントにパスワードが設定されていることが必須です。パスワードは必ず設定してください。

パスワード設定まで終了すると、ユーザ nsumsmgr のアカウントの設定が終了したことを知らせるメッセージが表示されます。

```
Complete to create new user "nsumsmgr".  
Start making ".rhosts".  
Input official host name of UMS machine:
```

<7> .rhosts ファイルを設定する

```
Input official host name of UMS machine:
```

.rhosts ファイルに UMS が動作するホスト名(ここではマネージャ(MG)のホスト名)を登録します。MG として使用する予定のホスト名を正式名称で入力してください。エイリアス名(別名)でなく、正式な名称で入力してください。

自マシンが MG の場合、もしくはスタンドアロンで運用する場合は、自マシンで hostname コマンドを実行して表示されるホスト名を指定します。

例えば hostname.domain.co.jp と入力すると、次のような確認のメッセージが表示されます。

```
Host name is "hostname.domain.co.jp". OK? ([y]/n)
```

y を入力してリターンキーを押すと、次に進みます。

n を入力してリターンキーを押すと、ホスト名の再入力ができます。

最後に、NetShepherd 管理者リストにユーザ nsumsmgr を追加登録して管理者ユーザ設定は終了です。次のメッセージが表示され、セットアップは終了します。

```
Start adding to qmgr.Complete adding to qmgr
```

(2) JobCenter セットアップ後に必要な作業

◆ クラスタサイトを構築する場合に必要な作業

nssetup 実行後はそのままローカルサイトが起動してプロセスが常駐します。もし続けてクラスタサイトの構築(cjcmksite)を実行する場合は、一旦ローカルサイトを停止して daemon.conf にローカルサイトを「サイトモード」で起動するよう local_daemon パラメータを事前に設定する必要がある。

ります。

詳細については「JobCenter クラスタ機能利用の手引き」の「2.3 クラスタ環境構築手順(UNIX 版) (4)(5)」を参照してください。

◆ 環境変数 TZ に関する設定

Linux、Solaris、AIX 版の JobCenter は、セットアップ後、環境変数 TZ に関する設定を行う必要があります。詳細については、「JobCenter 環境構築ガイド 14.1.5 環境変数 TZ に関する注意事項(Linux、Solaris、AIX 版)」を参照してください。

◆ 日本以外のタイムゾーンで JobCenter を使用する場合に必要な作業

日本以外のタイムゾーンで JobCenter を使用する場合、あるいは R12.8.2 以降に追加されたマルチタイムゾーン対応機能を利用する場合は、「JobCenter 環境構築ガイド 15.日本以外のタイムゾーンで利用する」を参照して追加設定を行ってください。

◆ BASECenter/SystemManager(MG)と連携する場合に必要な作業

JobCenter MG のセットアップ完了後、SysetemScope のドロップインアイコンの登録のために ssEventD を次の手順で再起動します。

```
root> /opt/OV/bin/ovstop ssEventD
root> /opt/OV/bin/ovstart ssEventD
```

また、JobCenter MG のパッケージを削除した場合にも、同様に再起動を行います。

◆ AIX で BASECenter/SystemManager を使用してイベント連携を行う場合に必要な作業

AIX に JobCenter と BASECenter/SystemManager がインストールされている場合、ジョブネットワークイベント送信デーモンを置き換える必要があります。

次の手順で行います。詳細については、「JobCenter 環境構築ガイド 11.3.1 BASECenter/SystemManager を用いた連携」を参照してください。

① JobCenter サービス停止します。

```
root> /usr/lib/nqs/nqsstop
```

② ファイルを退避します。

```
root> /usr/bin/cp -p /usr/lib/nqs/jnwcaster /usr/lib/nqs/jnwcaster.bk
```



BASECenter/SystemManager 以外のイベント連携を行う場合は、jnwcaster ファイルを元に戻す必要があるため、必ずファイルを退避してください。

③ ファイルを置換します。

```
root> /usr/bin/cp -p /usr/lib/nqs/jnwcasterBASE /usr/lib/nqs/jnwcaster
```

④ JobCenter サービス開始します。

```
root> /usr/lib/nqs/nqsstart
```

◆ OS のカーネルパラメータのチューニング

JobCenter で大量のトラックを短時間に生成してジョブリクエストを実行する場合、OS の様々なカーネルパラメータの上限値に抵触する可能性があります。(例えば HP-UX の `nproc`、`maxuprc`、`nfile`、`ninode` 等)。

「JobCenter 環境構築ガイド」の「システム利用資源」に記載されたリソース使用量を参照して、集中的にジョブリクエストを実行する際に消費するリソースについて、カーネルパラメータのチューニングを行ってください。

4. アンインストール

LicenseManager, JobCenter MG/SV および JobCenter CL/Win のアンインストール方法を説明します。

-
- 4.1 LicenseManagerをアンインストールする
 - 4.2 JobCenter MG, JobCenter SVをアンインストールする
 - 4.3 JobCenter CL/Winをアンインストールする

4.1 LicenseManagerをアンインストールする

4.1.1 UNIX版

4.1.2 Windows版

4.1.1 UNIX版

LicenseManager と依存関係にあるプロダクトがある場合は先にそれをアンインストールしてください。JobCenter も LicenseManager に依存しているので、LicenseManager をアンインストールする場合には JobCenter を先にアンインストールしてください。



依存関係にあるパッケージを削除せずに LicenseManager をアンインストールした場合、依存関係にあるプロダクトの動作に影響を与える恐れがあります。

ログイン名"root"でログインします。

```
login:root ↵
```

以降の OS ごとの説明では__部分(下線部分)をキーボードから入力してください。

<1> HP-UX版

- ① 次のコマンドを実行します。本パッケージが削除されます。

```
root> /usr/sbin/swremove NECWSLM ↵
```

コマンドが正常終了したのを確認してください。パッケージの削除は正常に終了しています。

- ② 確認のため次のコマンドを実行します。

```
root> /usr/sbin/swlist NECWSLM
```

- ③ 次のメッセージが表示されれば、本パッケージは正常に削除できています。

```
Software "NECWSLM" was not found on host "hostname:/"
```

<2> Solaris版

- ① 次のコマンドを実行してください。本パッケージが削除されます。

```
root> /bin/pkgrm NECWSLM ↵
```

パッケージの削除実行中に確認を求めるメッセージが表示されますが、いずれも y を入力してください。

- ② 次のメッセージが表示されればパッケージの削除は正常に終了しています。

```
Removal of <NECWSLM> was successful.
```

- ③ 確認のため次のコマンドを実行してください。

```
root> /bin/pkginfo NECWSLM
```

- ④ 次のメッセージが表示されれば、本パッケージは正常に削除できています。

```
ERROR: information for "NECWSLM" was not found
```

<3> Linux版

- ① 次のコマンドを実行してください。本パッケージが削除されます。

```
root> /bin/rpm -e NECWSLM ↵
```


- ② 次のメッセージが表示されれば、本パッケージは正常に削除できています。

```
*****now removing *****
Uninstallation was successful.
```

4.1.2 Windows版

LicenseManager と依存関係にあるパッケージがある場合は先にそれをアンインストールしてください。
JobCenter も LicenseManager に依存しているので、LicenseManager をアンインストールする場合には
JobCenter を先にアンインストールしてください。



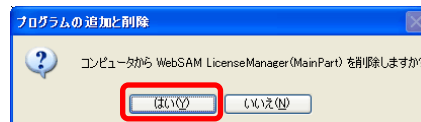
依存関係にあるパッケージを削除せずに LicenseManager をアンインストールした場合、依存関係にある製品の動作に影響を与える恐れがあります。確認をお願いします。

次の手順に従って LicenseManager(MainPart)パッケージの削除を行います。

- ① マシンを立ち上げ Administrator 権限のあるユーザでログインしてください。
- ② Windows の [スタート] - [コントロールパネル] で「プログラムの追加と削除」を実行し、次の画面を表示させます。[削除] ボタンをクリックします。



- ③ 次の画面が表示されます。[はい] ボタンをクリックして、パッケージの削除を行います。



- ④ 「プログラムの追加と削除」画面を再度表示し、「WebSAM LicenseManager(Main Part)」のエントリが存在しなければパッケージの削除は完了です。

4.2 JobCenter MG, JobCenter SVをアンインストールする

- 4.2.1 UNIX版
- 4.2.2 Windows版

4.2.1 UNIX版

(1) パッケージを削除する

表 4-1を参考に、JobCenterのパッケージを削除してください。
削除するパッケージは、OS別にJobCenterの種別(MGやSV)によって異なりますので、実際にインストールされているパッケージ名を確認してから削除してください。パッケージ名の確認方法は、「6 バージョンの確認方法(UNIX版)」を参照してください。

表 4-1 削除が必要なパッケージ名とパッケージ削除コマンド OS 別一覧

OS	削除が必要なパッケージ名	パッケージ削除コマンド
HP-UX	NECJCpkg(12.7 以降)	swremove <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBmg(12.6.x 以前)	
	NECSSJBag(12.6.x 以前)	
	NECSSJBpt(12.6.x 以前)	
Solaris	NECJCpkg(12.7 以降)	pkgrm <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBmg(12.6.x 以前)	
	NECSSJBag(12.6.x 以前)	
	NECSSJBpt(12.6.x 以前)	
AIX	NECJCpkg(12.7 以降)	installp -u <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBag(12.6.x 以前)	
	NECSSJBpt(12.6.x 以前)	
Linux	NECJCpkg(12.7 以降)	rpm -e <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBag(12.6.x 以前)	
	NECSSJBpt(12.6.x 以前)	

-  NECxxxxpt は累積パッチパッケージで、適用しているシステムのみ削除が必要になります。MG や SV パッケージに依存しているので、MG や SV パッケージよりも先に削除する必要があります。
-  R12.7 以前の HP-UX および Solaris では、MG マシンには MG と SV の両方のパッケージがインストールされています。その場合 MG パッケージが SV パッケージに依存しているので、MG から先にアンインストールしてください。

(2) NQS関連のデータを削除する

NQS 関連のデータを削除する場合は、次のディレクトリを削除してください。

- /usr/spool/nqs

(3) ユーザ関連のデータを削除する

ユーザ関連のデータ(ローカルサイト)を削除する場合は、次のディレクトリとシンボリックリンクファイルを削除してください。

- <ユーザのホームディレクトリ>/NetShepEUI
- /usr/spool/nqs/gui/<ユーザ名>

(4) クラスタ関連のデータを削除する

クラスタ関連のデータを削除する場合は、次のディレクトリとシンボリックリンクファイルを削除してください。

- <クラスタ DB パス>/nqs
- /usr/spool/nqs/<リロケータブル IP 16 進表記>



クラスタ関連のデータベースを削除すると、同時にデータベース配下のユーザ関連データも削除することになりますのでご注意ください。

4.2.2 Windows版

以下の操作は Administrator 権限のあるユーザでログインしてから実施してください。

備考 %InstallDirectory% は JobCenter 本体のインストールディレクトリを表します。(既定値は C:¥JobCenter¥SV)

(1) パッケージを削除する

JobCenter のバージョンによってパッケージの削除方法が異なります。

<1> JobCenter(MG/SV)R12.8 以降の場合

Windows の [スタート] - [コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除] を選択し、表示される画面で JobCenter(MG/SV) R12.x を選択、[変更と削除] をクリックします。(R12.x には対象の JobCenter のバージョンを当てはめてください)。



<2> JobCenter(SV/NT)R7.1 以降R12.7 までの場合

Windows の [スタート] - [すべてのプログラム] - [JobCenter] - [SV] - [アンインストール] を実行します。



Windows OS の「プログラムの追加と削除」からのアンインストールからは、正常にアンインストールできません。必ず上記の手順でアンインストールしてください。

JobCenter SV のアンインストールでは、スタートメニューの [JobCenter] グループを削除できない場合があります。アンインストール後、新たなバージョンをインストールしない場合には、別途スタートメニューの [JobCenter] を削除してください。

<3> JobCenter(SV/NT)R4.1 以前(NetShepherd系)の場合

アンインストール対象の JobCenter(または NetShepherd)のインストールメディアに含まれている、JobCenter のパッケージ削除のコマンド svuninst.exe を実行します。

(2) NQS関連のデータを削除する

NQS 関連のデータ(ユーザ設定コンフィグファイルを含む)を削除する場合は、次のディレクトリごとを削除してください。(アンインストール時点で削除されない場合のみ)

<1> JobCenter(MG/SV)R12.8 以降の場合

- %InstallDirectory%\etc
- %InstallDirectory%\spool\map
- %InstallDirectory%\spool\new
- %InstallDirectory%\spool\private
- %InstallDirectory%\spool\sap
- %InstallDirectory%\spool\scripts
- %InstallDirectory%\spool\work

<2> JobCenter(MG/SV)R12.7 以前の場合

- %InstallDirectory%\etc
- %InstallDirectory%\map
- %InstallDirectory%\spool
- %InstallDirectory%\jnwexe\spool\sap.d

(3) 設定関連のデータを削除する

ユーザが設定したコンフィグデータを削除する場合は、次のディレクトリごと削除してください。(アンインストール時点で削除されない場合のみ)

<1> JobCenter(MG/SV)R12.8 以降の場合

- %InstallDirectory%\spool\conf

<2> JobCenter(MG/SV)R12.7 以前の場合

- %InstallDirectory%\etc

(4) ユーザ関連のデータその他を削除する

ユーザ作成データ(ジョブネットワークやスケジュール、稼働日カレンダー等)を削除する場合は、次のディレクトリごと削除してください。(アンインストール時点では削除されず残されます)

<1> JobCenter(MG/SV)R12.8 以降の場合

- %InstallDirectory%\spool\users<ユーザ名>
- %InstallDirectory%\spool\wkcal.d

<2> JobCenter(MG/SV)R12.7 以前の場合

- %InstallDirectory%\jnwexe\spool<ユーザ名>
- %InstallDirectory%\jnwexe\spool\cmn.d.C
- %InstallDirectory%\jnwexe\spool\Sample.d
- %InstallDirectory%\jnwexe\spool\wkcal.d

(5) クラスタ関連のデータを削除する

クラスタ関連のデータを削除する場合は、次のようにして削除してください。

<1> JobCenter(MG/SV)R12.8 以降の場合

- [サーバの環境設定]の[サイト]一覧から目的のクラスタサイトを右クリックして[削除]を選択して、[サイトの削除]ダイアログで[削除]を選択

<2> JobCenter(MG/SV)R12.7 以前の場合

- <クラスタ DB>をディレクトリごと削除



クラスタ関連のデータベースを削除すると、同時にデータベース配下のユーザ関連データも削除することになりますのでご注意ください。

(6) レジストリ関連のデータを削除する

レジストリ関連のデータを削除する場合は、次の手順を行います。

- ① Windows の [スタート] – [ファイル名を指定して実行] で表示されるダイアログに「regedit」と入力し、[OK] ボタンをクリックします。レジストリエディタの画面が表示されます。
- ② レジストリエディタの左の画面で次のキーを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューから削除を選択します。
 - HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NetShepherd/SV

(7) 環境変数の設定を削除する

JobCenter をクラスタで使用していた場合、環境変数 NQS_SITE の設定の有無を確認し、NQS_SITE が設定されていた場合は削除してください。



JobCenter アンインストール時にファイルが使用中である等の理由により、「Uninstall finished. Please reboot OS to complete uninstallation.」のメッセージが表示されて%InstallDirectory%配下の bin と lib が削除されず残ることがあります。その場合は OS 再起動後に別途エクスプローラー等で削除してください。



JobCenter をアンインストールした場合でも、Microsoft Visual C++ 2008 SP1 再頒布パッケージは残ります。不要な場合は「プログラムの追加と削除」(Windows 2003 等の場合)から以下のパッケージを削除してください。

Microsoft Visual C++ 2008 Redistributable – x86 9,0,30729.17

4.3 JobCenter CL/Winをアンインストールする

4.3.1 パッケージを削除する

4.3.2 レジストリ関連のデータを削除する

4.3.1 パッケージを削除する

以下の操作は Administrator 権限のあるユーザでログインしてから実施してください。

Windows の [スタート] – [コントロールパネル] – [プログラムの追加と削除] を選択し、表示される画面で JobCenter(CL/Win)を選択、[変更と削除] をクリックします。



4.3.2 レジストリ関連のデータを削除する

CL/Win アンインストール後も以下のレジストリ関連データが残っていた場合、次の手順で削除します。
(レジストリにデータが残っていない場合は、削除操作は不要です)

- ① Windows の [スタート] – [ファイル名を指定して実行] で表示されるダイアログに「regedit」と入力し [OK] ボタンをクリックします。レジストリエディタの画面が表示されます。
- ② レジストリエディタの左の画面で次のキーを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューから削除を選択します(R12.x には対象の JobCenter のバージョンを当てはめてください)。

- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\JobCenter(CL/Win)\R12.x

5. バージョンアップ

JobCenter のバージョンアップ方法を説明します。

5.1 UNIX版

5.2 Windows版

5.1 UNIX版



注意事項

- ◆ アンインストール時、ユーザが作成したジョブネットワークの定義データは引き継がれます。ただし、実行中のリクエストやトラッカは引き継げません。また、独自に作成していたキューや、リクエスト転送先のマシン情報、ユーザマッピングなどのNQS関連の設定値はすべて削除されますので、新しいバージョンをインストールしたあと再設定を行う必要があります。NQS関連の設定も引き継ぎたい場合は、「5.1.2 NQS関連のデータ引き継ぎ」を参照してください。
- ◆ バージョンアップの後、引き継がれたユーザデータに大量の未アーカイブ状態のトラッカが含まれている場合、上記のとおりトラッカは引き継げませんのですぐに削除してください。
- ◆ R12.5 以降には共有ジョブネットワークがありません。したがって、R12.4.x 以前の JobCenter から R12.5 以降にバージョンアップする際には、前バージョンの共有ジョブネットワーク中の全ジョブネットワークを、適当なユーザのジョブネットワークグループに移動してからバージョンアップしてください。
- ◆ 一度バージョンアップを行うと、バージョンダウンを行ってもユーザデータが互換性を持たず正常に動作しない場合があります。バージョンアップを行う前にエクスポートによりユーザデータのバックアップを取得するようにしてください。
- ◆ R12.8 または R12.8.1 で作成したジョブネットワーク・スケジュール・カレンダーデータを R12.8.2 に移行した後に、それらのユーザデータに何らかの設定変更を加えるとデータの非互換部分が追加されるため、元の R12.8 または R12.8.1 以前の環境に対してエクスポート・インポートで書き戻すことはできませんので注意してください。

5.1.1 バージョンアップ

5.1.2 NQS関連のデータ引き継ぎ

5.1.1 バージョンアップ

新しいバージョンの JobCenter をインストールする前に古いバージョンの JobCenter のパッケージを削除する必要があります。

パッケージの削除方法については、「4.2.1 (1) パッケージを削除する」を参照してください。

5.1.2 NQS関連のデータ引き継ぎ

NQS 関連のデータを引き継ぎたい場合は、次の手順で作業を行います。

- ① JobCenter を停止して、次のディレクトリ配下のファイルをバックアップします。

`/usr/spool/nqs/nmap`

`/usr/spool/nqs/private`

- ② 旧バージョンの JobCenter のパッケージを削除します。削除方法に関しては、「4.2.1 UNIX版」を参照してください。なお「(2)NQS関連のデータを削除する」は必ず実行してください。
- ③ 新しいバージョンの JobCenter をインストールします。`/opt/netshep/nssetup` により実行環境を一旦セットアップしたあと、`/usr/lib/nqs/nqsstop` で JobCenter を停止させます。
- ④ あらかじめ①でバックアップしておいた、`/usr/spool/nqs/nmap`, `/usr/spool/nqs/private` 配下のファイルをリストアします。ただし、次のファイルがあった場合はリストア後に削除します。

- `/usr/spool/nqs/private/root/transfile`
- `/usr/spool/nqs/private/root/control/(ディレクトリ)※` /配下の全ファイル
- `/usr/spool/nqs/private/root/data/(ディレクトリ)※` /配下の全ファイル
- `/usr/spool/nqs/private/root/tracking/`配下の全ファイル

注 (ディレクトリ)という表記はそこに存在するすべてのディレクトリを指します。ディレクトリを削除するという意味ではないので注意してください。内部のファイルのみ削除してください。

- ⑤ `/usr/lib/nqs/nqsstart` で JobCenter を起動します。
- ⑥ 旧バージョンで JobCenter を利用していた全てのユーザについて、CL/Win で接続して正常にログインできることを確認してください。

以上で、JobCenter のバージョンアップ作業は終了です。



注意事項

- ◆ 自ホスト名を変更する場合は、ジョブネットワークの定義情報のみ引き継ぐことができます。引き継ぎの方法については「JobCenter 環境構築ガイド 13.環境移行」を参照してください。
- ◆ バージョンダウンの場合、設定内容の引き継ぎはできません。
- ◆ バージョンアップ後に CL/Win による接続を行わないユーザについては、新しいバージョンの MG/SV が JobCenter ユーザとして認識できない場合があります。そのため CL/Win による接続確認を全ての利用ユーザについて必ず実施してください。

5.2 Windows版



注意事項

- ◆ アンインストール時、ユーザが作成したジョブネットワークの定義データは引き継がれます。ただし、実行中のリクエストやトラッカは引き継げません。また、独自に作成していたキューや、リクエスト転送先のマシン情報、ユーザマッピングなどのNQS関連の設定値はすべて削除されますので、新しいバージョンをインストールしたあと再設定を行う必要があります。NQS関連の設定も引き継ぎたい場合は、「5.2.2 NQS関連のデータ引き継ぎ」を参照してください。
- ◆ バージョンアップの後、引き継がれたユーザデータに大量の未アーカイブ状態のトラッカが含まれている場合、上記のとおりトラッカは引き継げませんのですぐに削除してください。
- ◆ R12.5 以降には共有ジョブネットワークがありません。したがって、R12.4.x 以前の JobCenter から R12.6 以降にバージョンアップする際には、前バージョンの共有ジョブネットワーク中の全ジョブネットワークを、適当なユーザのジョブネットワークグループに移動してからバージョンアップしてください。
- ◆ MSFC(MSCS)クラスタ環境の場合、前のバージョンを削除して新しいバージョンをインストールする際に、特別な手順で行う必要があります。詳細については、マニュアル「クラスタ機能利用の手引き」を参照してください。
- ◆ 前バージョンの JobCenter をクラスタで運用していた場合、アンインストール後に環境変数 NQS_SITE の設定の有無を確認し、設定されていた場合は削除してください。環境変数 NQS_SITE が設定されていると、新しいバージョンの JobCenter のセットアップは正常に実行できません。
- ◆ R12.8 より各ファイルパスが変更されたため、バージョンアップ時には JobCenter 配下のディレクトリの再構築が行われます。ディレクトリの再構築が完了すると以前のディレクトリ構成に戻すことはできません。そのため、一度バージョンアップを行うと、バージョンダウンを行うことができなくなります。
バージョンアップを行う前にバックアップを取得するようにしてください。バックアップ対象のファイルは保守窓口より提供しているバックアップ手順書を参照してください。(ユーザデータについてはエクスポートによりユーザデータのバックアップを取得するようにしてください)
なおクラスタ環境の場合、クラスタサイトのデータベースもバージョンアップが必要になります。詳細は「JobCenter クラスタ機能利用の手引き」を参照して下さい。
- ◆ R12.8 または R12.8.1 で作成したジョブネットワーク・スケジュール・カレンダーデータを R12.8.2 に移行した後に、それらのユーザデータに何らかの設定変更を加えるとデータの非互換部分が追加されるため、元の R12.8 または R12.8.1 以前の環境に対してエクスポート・インポートで書き戻すことはできませんので注意してください。

5.2.1 バージョンアップ

5.2.2 NQS関連のデータ引き継ぎ

5.2.1 バージョンアップ

旧バージョンの JobCenter のバージョンによってバージョンアップ方法が異なります。

バージョンアップ実行後は、Windows の [スタート] – [すべてのプログラム] – [JobCenter] – [SV] – [サーバの環境設定] から [ユーザ] を選択して、各ユーザのパスワード欄が「OK」となっているのを確認してください。「Not Set」となっているユーザが存在したら、ユーザ名およびパスワードを再入力してパスワード欄が「OK」となるのを確認してください。

備考 JobCenter(SV/NT)R5.1～R6.1 はリリースしておりません。

(1) JobCenter(SV/NT)R4.1 以前(NetShepherd系)の場合

- ① 旧バージョンの JobCenter(または NetShepherd)のインストールメディアに含まれている JobCenter のパッケージ削除のコマンド svuninst.exe を実行します。
- ② パッケージ削除後、新しいバージョンの JobCenter をインストールします。

(2) JobCenter(SV/NT)R7.1～R12.1 の場合

- ① Windows の [スタート] – [すべてのプログラム] – [JobCenter] – [SV] – [アンインストール] を実行します。
- ② パッケージ削除後、新しいバージョンの JobCenter をインストールします。

(3) JobCenter(SV/NT)R12.2 以降の場合



本作業(アップグレード)を行う前に必ず次の作業・確認を行ってください。

- ◆ JobCenter サービスおよびクラスタサイトの停止
- ◆ <JobCenterMG/SV インストールディレクトリ>配下のファイルにアクセスしていないこと
- ◆ JobCenterMG/SV をインストールしたドライブに十分な空き容量(インストール済みの JobCenter MG/SV が使用しているサイズ以上)があること

- ① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットし、Windows の [スタート] – [ファイル名を指定して実行] を選択します。次のファイル名を指定して、[OK] ボタンを選択します。

Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥x86¥jcsetup.exe

または

Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥x64¥jcsetup.exe ^{注1}

または

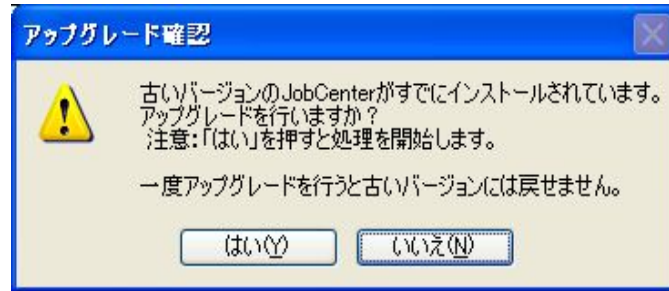
Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥ipf¥jcsetup.exe ^{注2}

注 1. EM64T/AMD64 用の 64 ビットネイティブバイナリ

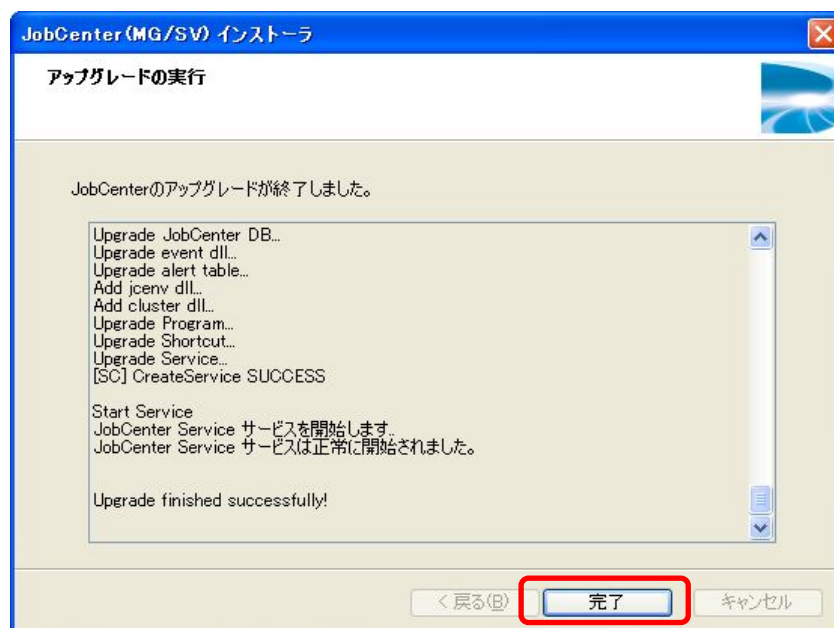
注 2. IA64(IPF)用の 64 ビットネイティブバイナリ

備考 CD-ROM ドライブを Q: ドライブとして説明します。CD-ROM ドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

- ② アップグレード確認で[はい]ボタンを押すと処理を開始します。



- ③ JobCenter(MG/SV)のアップグレードが正常に完了すると[完了]ボタンが押せるようになりますので、[完了] ボタンをクリックし、セットアップを完了します。



また、アップグレードが完了すると、以下のようにアップグレード前のディレクトリのバックアップのパスが表示されます。正常動作することを確認の上、バックアップディレクトリを削除してください。



 インストール完了時に以下の警告メッセージが表示されることがあります。警告の内容に従って次の事をご確認ください。

- ◆ 「Cluster 用 DLL の配置に失敗しました」
クラスタソフト MSCS または MSFC 用の JobCenter の DLL の置換に失敗しています。MSCS または MSFC ですでに JobCenter を利用していた場合はマニュアル「クラスタ機能利用の手引き」のバージョンアップ手順を参照してください。

MSCS または MSFC を新規に利用する場合は次のファイルを「C:\Windows\cluster」にコピーしてください。MSCS または MSFC を使用しない場合は本設定の必要はありません。

```
%InstallDirectory%\lib\JobCenterCluster.dll  
%InstallDirectory%\lib\JobCenterClusterEx.dll
```

◆ 「ESMPRO/ServerAgent との連携設定に失敗しました」

ESMPRO/ServerAgent との連携を行う場合、正しく ServerAgent がインストールされているかを確認してください。正しくインストールされていることを確認後、次のコマンドを実行してください。

```
C:\> %InstallDirectory%\setup\amirtreg del  
C:\> %InstallDirectory%\setup\amirtreg add
```

ESMPRO/ServerAgentを利用しない場合は設定の必要はありません。

5.2.2 NQS関連のデータ引き継ぎ

NQS 関連のデータを引き継ぎたい場合は、次の手順で作業を行ってください。

備考 %InstallDirectory% は JobCenter 本体のインストールディレクトリを表します。(既定値は C:\JobCenter\SV)

- ① コントロールパネルのサービスから、JobCenter 関連のサービスを次の順番で停止させます。

バージョンによっては存在していないサービスもあります。その場合、そのサービスの停止はスキップして次のサービスを停止させてください。

- Sclaunch Service
- Comagent Service
- jnwengine service
- NetShepherd

- ② 次のディレクトリ配下のファイルをバックアップします。

- %InstallDirectory%\etc
- %InstallDirectory%\nmap
- %InstallDirectory%\spool\private\root

- ③ 旧バージョンのJobCenterのパッケージを削除します。削除方法に関しては、「4.2.2 Windows版」を参照してください。なお「(2)NQS関連のデータを削除する」は必ず実行してください。

- ④ 新しいバージョンの JobCenter をインストール後、マシンを再起動します。

- ⑤ マシン再起動後、コントロールパネルのサービスから JobCenter 関連のサービスを停止します。

- JobCenter Service

⑥ バックアップしておいたファイルをそれぞれ次の場所にリストアします。

バックアップ元	リストア先
%InstallDirectory%\etc	%InstallDirectory%\etc
%InstallDirectory%\nmap	%InstallDirectory%\spool\nmap
%InstallDirectory%\spool\private\root	%InstallDirectory%\spool\private\root

⑦ 次のファイルがあった場合はリストア後に削除してください。

- %InstallDirectory%\spool\private\root\transfile
- %InstallDirectory%\spool\private\root\control*(ディレクトリ)* 配下の全ファイル
- %InstallDirectory%\spool\private\root\data*(ディレクトリ)* 配下の全ファイル
- %InstallDirectory%\spool\private\root\tracking* 配下の全ファイル

注 (ディレクトリ)という表記はそこに存在するすべてのディレクトリを指します。ディレクトリを削除すると言う意味ではないので注意してください。内部のファイルのみ削除してください。

⑧ コントロールパネルのサービスから JobCenter 関連のサービスを起動します。

- JobCenter Service

⑨ 旧バージョンで JobCenter を利用していた全てのユーザについて、CL/Win で接続して正常にログインできることを確認してください。

以上で、JobCenter のバージョンアップ作業は終了です。



注意事項

- ◆ 自ホスト名を変更する場合、ジョブネットワークの定義情報に関しては、jnwopコマンドで変換することによりデータを引き継ぎます。しかしながら、NQS関連の引き継ぎは行うことができません。このような場合は、「5.2.1 バージョンアップ」の手順に従ってバージョンアップしてください。
- ◆ バージョンダウンの場合、設定内容の引き継ぎはできません。
- ◆ バージョンアップ後に CL/Win による接続を行わないユーザについては、新しいバージョンの MG/SV が JobCenter ユーザとして認識できない場合があります。そのため CL/Win による接続確認を全ての利用ユーザについて必ず実施してください。

6. バージョンの確認方法

JobCenter のバージョン確認方法を説明します。

6.1 UNIX版

6.2 Windows版

6.1 UNIX版

UNIX 版の製品のバージョンの確認は、コマンドを用いて行います。

6.1.1 JobCenter MG/SV

6.1.1 JobCenter MG/SV

以下の表に示すコマンドを例にパッケージのバージョンを確認します。
パッチが適用されている環境では、NECSSJBpt のパッケージのバージョン番号を必ず確認するようにしてください。また、12.7 以降と 12.7 以前はパッケージ名が異なりますので注意してください。

表 6-1 JobCenter のバージョン確認コマンド OS 別一覧

OS	確認対象のパッケージ名	バージョン確認コマンド例
HP-UX	NECJCpkg(12.7 以降)	swlist <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBmg(12.7 以前)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前)	
Solaris	NECJCpkg(12.7 以降)	pkginfo -l <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBmg(12.7 以前)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前)	
AIX	NECJCpkg(12.7 以降)	lspp -L NECSSJB*
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前)	
Linux	NECJCpkg(12.7 以降)	rpm -q <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前)	

6.2 Windows 版

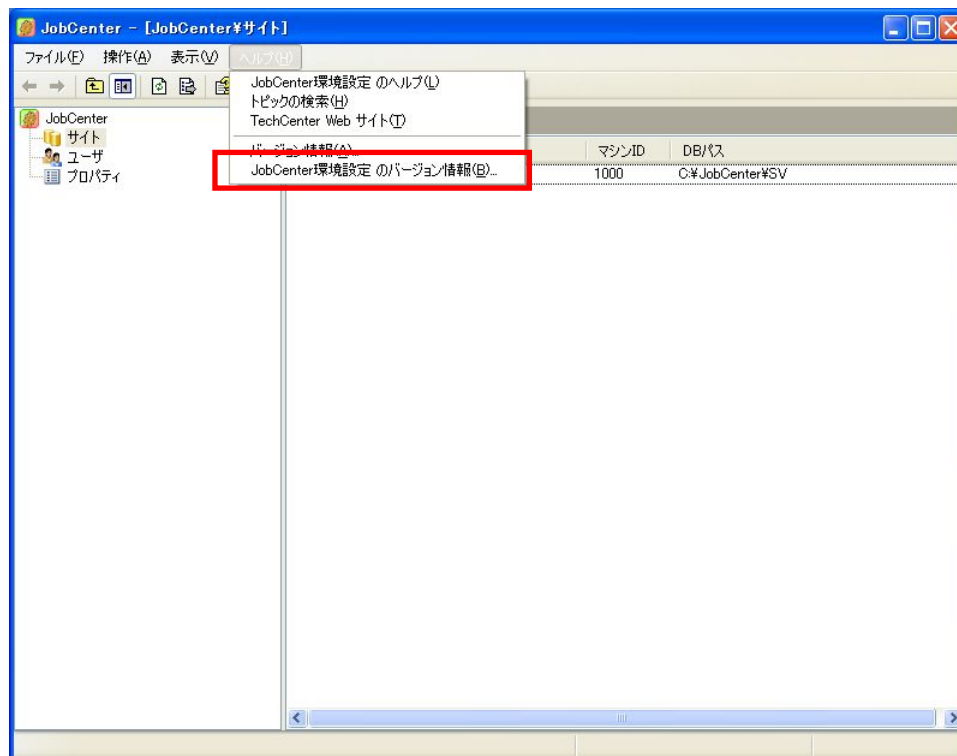
Windows 版の製品のバージョンの確認は、GUI を用いて行います。

6.2.1 JobCenter SV

6.2.2 CL/Win

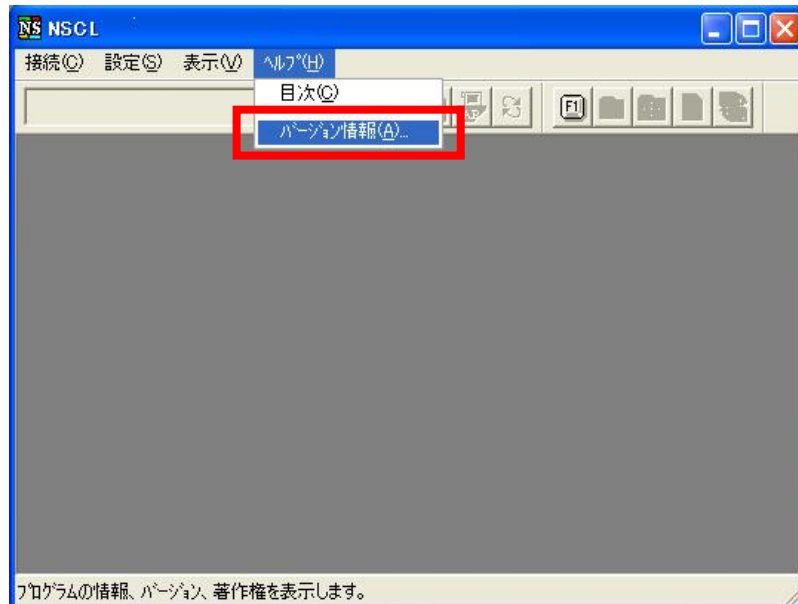
6.2.1 JobCenter SV

- ① Windows の [スタート] から、[すべてのプログラム] - [JobCenter] - [SV] - [サーバの環境設定] を実行します。
- ② [JobCenter サーバの環境設定] ダイアログが表示されたら、[ヘルプ] - [JobCenter 環境設定のバージョン情報] ボタンを押すことによってバージョン情報を確認することができます。



6.2.2 CL/Win

- ① Windows の [スタート] から、 [すべてのプログラム] － [JobCenter] － [Client] － [JobCenter クライアント] を実行します。
- ② CL/Win のウィンドウが表示し、メニューバーから[ヘルプ] － [バージョン情報]を選択することによってバージョン情報を確認することができます。



索引

[.]

.rhosts … 68

[3]

32-bit Compatibility Layer … 38

[A]

AIX … 69

AIX 版 … 27, 40

[B]

BASECenter … 69

BASECenter(MG) … 69

[H]

HP-UX 版 … 21, 36, 72

[I]

IA-32 Execution Layer … 38

IA-64 システム … 38

[J]

JobCenter … 39, 63, 64, 85

JobCenter CL/Win … 55, 79

JobCenter MG … 36, 74

JobCenter SV … 74

JobCenter (SV/NT) R4.1 … 76, 84

JobCenter (SV/NT) R7.1 … 76

[L]

LicenseManager … 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 35, 72

LicenseManager(MainPart) … 29

Linux 版 … 26, 38, 72

[N]

NetShepherd … 76, 84

NQS 関連 … 75, 77, 82

nssetup … 63

[S]

Solaris 版 … 24, 37, 72

[U]

UMS 環境 … 65

UNIX 版 … 63, 72, 74, 81, 90

[W]

Windows 版 … 28, 41, 53, 73, 76, 83

[あ]

アンインストール … 71, 72, 73, 74, 76, 79

イベント連携 … 69

インストール … 8, 9, 20, 21, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 35, 36, 38, 39, 55, 85

[か]

環境変数 … 78

管理者ユーザ … 66

言語環境 … 64

コードワード … 32

コマンド … 63

[さ]

実行環境 … 63

セットアップ … 63

セットアップ画面 … 56

[た]

登録 … 32

[な]

ネットワーク … 9

[は]

バージョンアップ … 80, 82, 83, 89, 90, 91

パスワード … 67

パッケージ … 72, 73, 74, 76, 79

引き継ぎ … 82

ホスト ID … 19

[ま]

メッセージ … 35

メモリ容量 … 21, 24, 26, 28

[や]

ユーザ関連 … 75, 77

[ら]

レジストリ関連 … 78, 79

[わ]

割り当て … 19

